

94

413

佐賀案内

026205-000-8

94-413

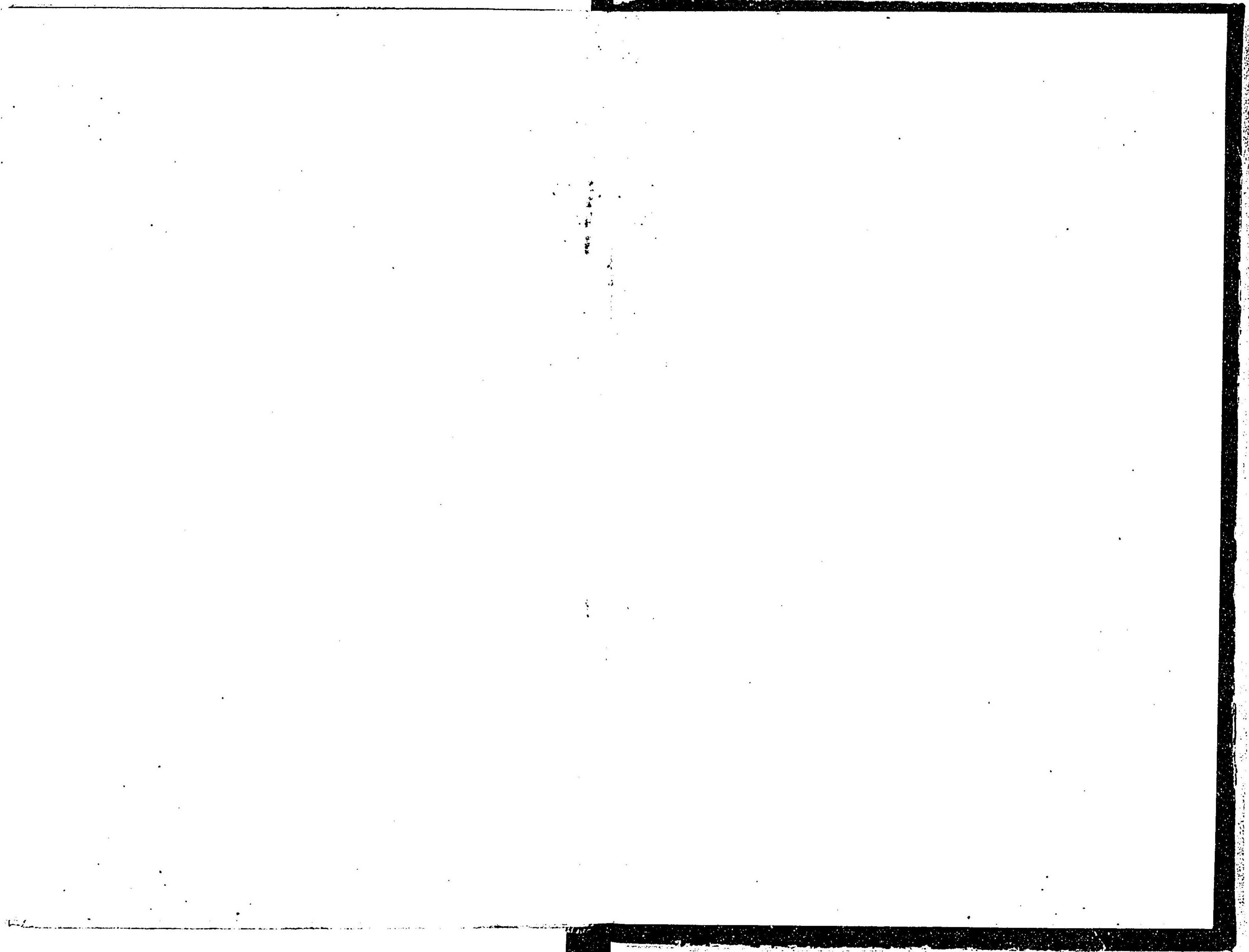
佐賀案内

筑紫野 守(木下 鹿一郎) / 著

M39

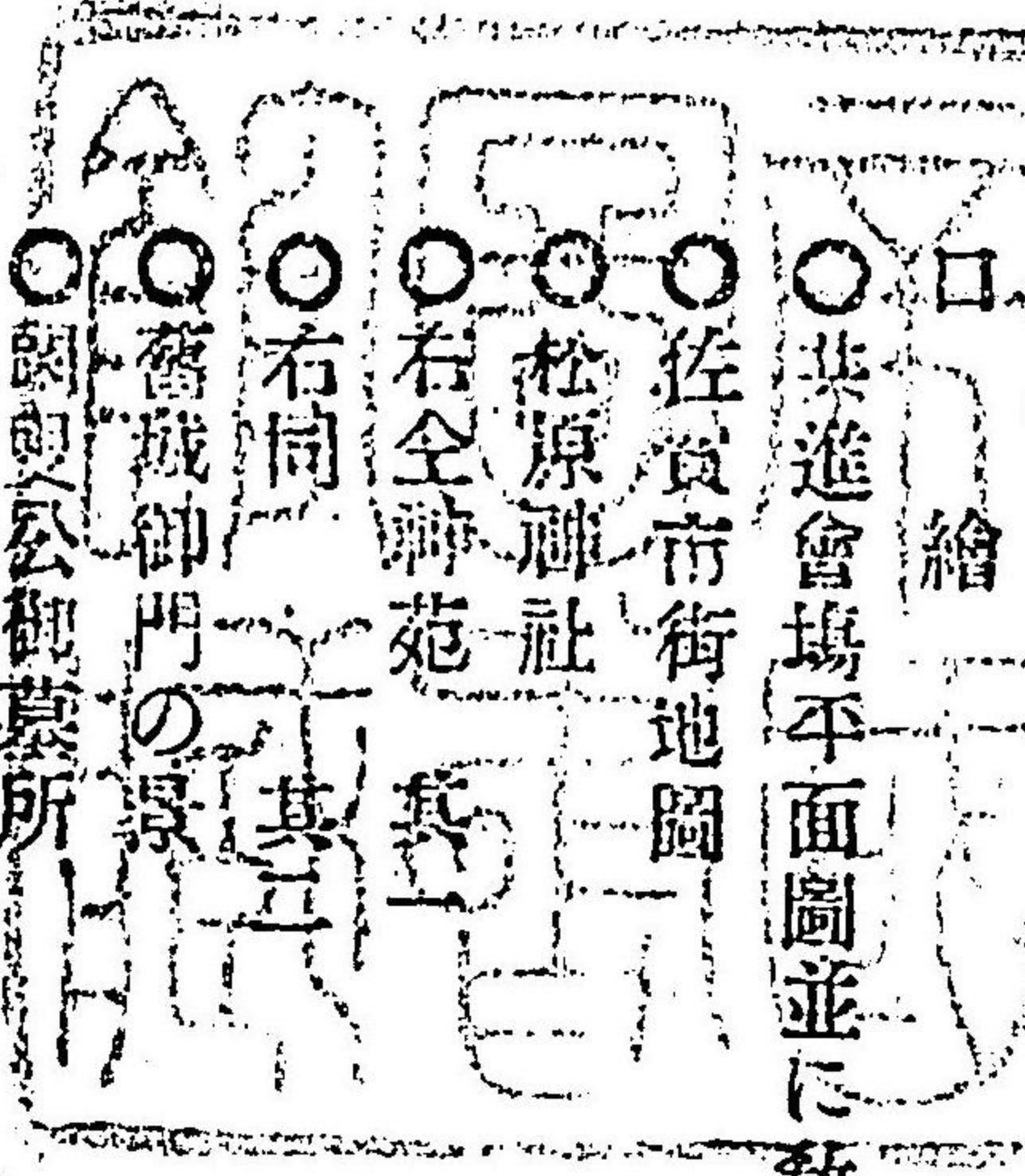
ADC-3900





74-413

佐賀案内目次



- 共進會場平面圖並に教育品展覽會場平面圖
- 佐賀市街地圖
- 松原神社
- 右全神苑 其
- 右同 其
- 舊城御門の景
- 關與公御墓所
- 佐賀縣廳
- 縣會議事堂
- 川上及築の景
- 石井樋の景
- 佐賀停車場前凱旋門

はしがき序文

- ▲ 名所古跡
- ▲ 佐賀の稱呼の來歴
- ▲ 佐賀市の成立
- ▲ 松原神社
- ▲ 全神苑
- ▲ 名主鍋島閉叟公
- ▲ 招魂社
- ▲ 征韓憂國黨碑
- ▲ 楠神社

※



- ▲ 與賀神社
- ▲ 八幡社
- ▲ 伊勢屋町太神宮
- ▲ 牛島天満宮
- ▲ 佐賀城の今昔
- ▲ 名代の名物男江藤新平
- ▲ お堀端の清香
- ▲ 高寺の鐘聲
- ▲ 多布施河畔の松籟
- ▲ 神野お茶屋
- ▲ 弘道館
- ▲ 乾亨院
- ▲ 願正寺
- ▲ 稱念寺
- ▲ 本行寺

※二

- ▲ 宗龍寺
- ▲ 龍泰寺
- ▲ 高傳禪寺
- ▲ 法勝寺
- ▲ 川上の絶勝
- ▲ 川上の鮎
- ▲ 川上の古戦場
- ▲ 淀姫神社
- ▲ 實相院
- ▲ 川上の御茶屋
- ▲ 春日山の御墓所
- ▲ 金立山
- ▲ 鬼の岩屋

佐賀方言と普通語との対照
(二百餘種)

佐賀の工場

- ▲ 精煉社
- ▲ 佐賀セメント會社
- ▲ 谷口鉄工場
- ▲ 眞崎鉄工場
- ▲ 鶴澤麵器製造所
- ▲ 佐賀機械製造所
- ▲ 嘉瀬町鑄物

名物案内

- ▲ 丸房露
- ▲ 嘉壽貞良
- ▲ 羊羹
- ▲ 釣柿
- ▲ お堀蓮根

佐賀の商業

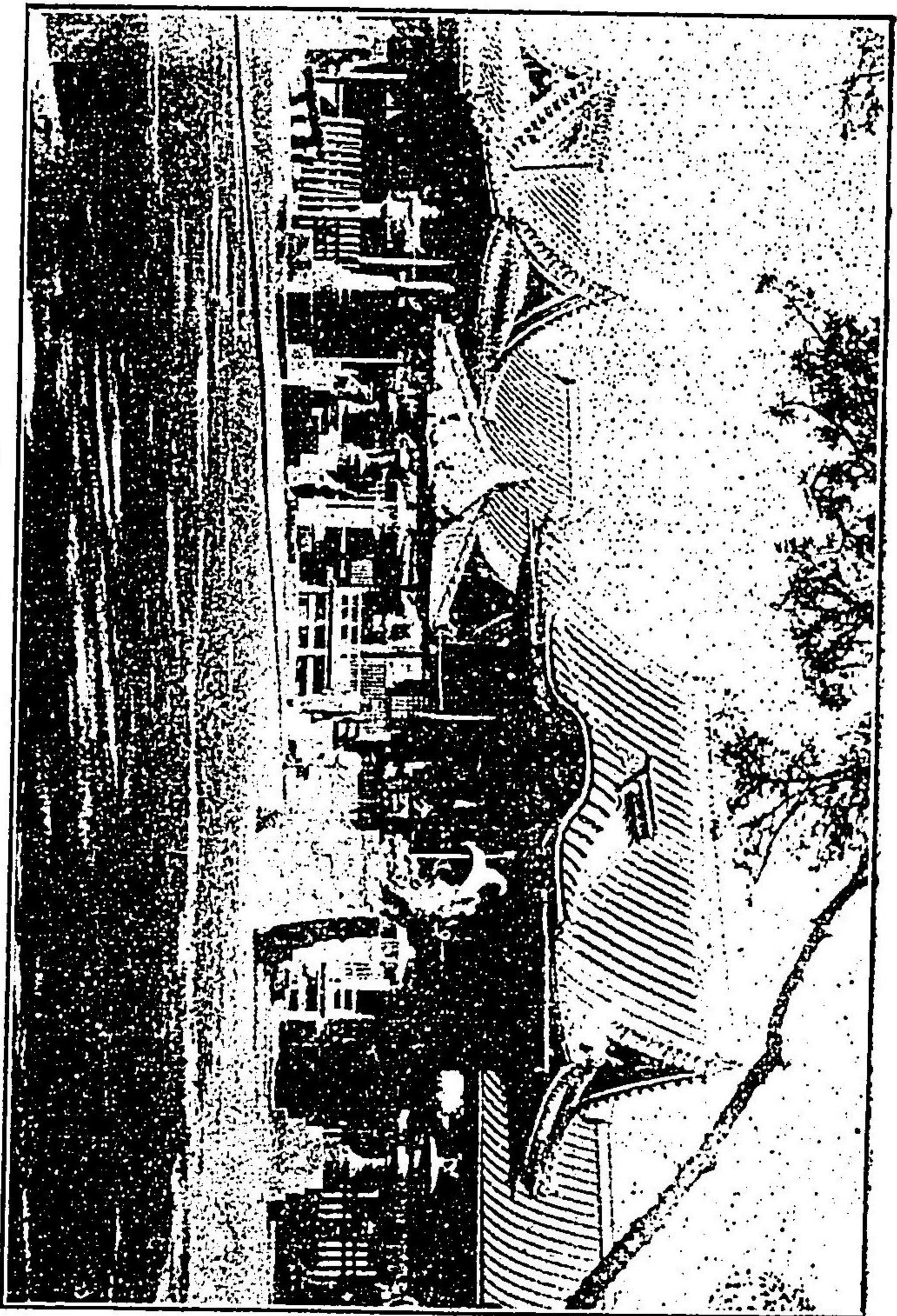
- ▲ 佐賀ネル
- ▲ 扇町毛氈
- ▲ 奈良漬
- ▲ 倉谷葛
- ▲ 泥猴魚
- ▲ 蠟牡
- ▲ 名尾紙
- ▲ あげまき
- ▲ 佐賀市の繁昌
- ▲ 佐賀商人
- ▲ 佐賀の旅籠
- ▲ 佐賀人氣風

※三

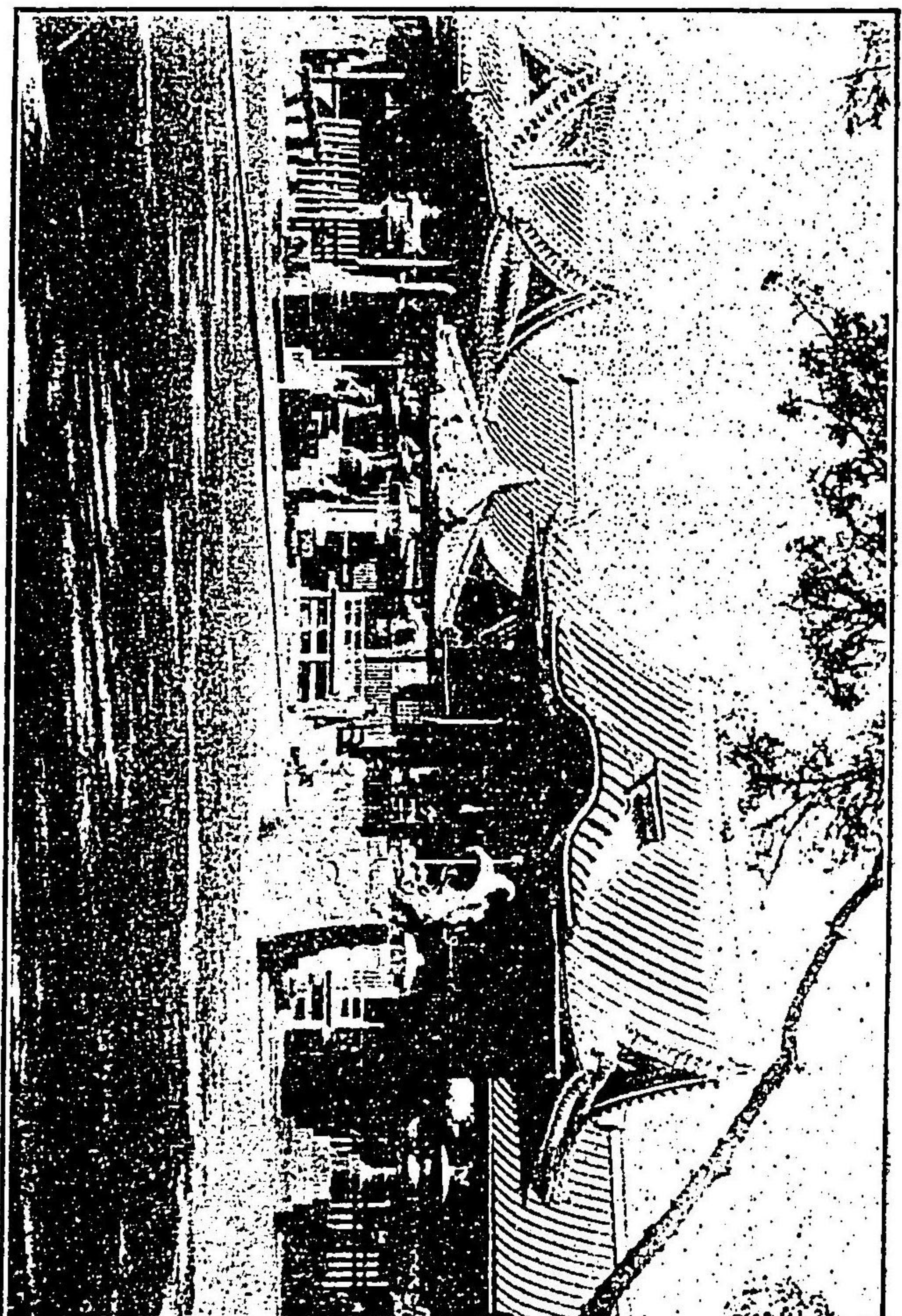
鐵道時間表其他

- ▲九鐵佐賀驛汽車發着時間表本線及唐津線
- ▲九鐵佐賀驛より各驛哩程及賃金表
- ▲山陽主要各停車場三等賃金表
- ▲九鐵佐賀驛より一、二、三等各驛間往復賃金表
- ▲全佐賀驛より山陽主要各停車場三等往復賃金表
- ▲通行税金表
- ▲切符通用期限内隨意下車場
- ▲市内人力車賃金表
- ▲電話所地名及料金表
- ▲郵便電信料金一覽表

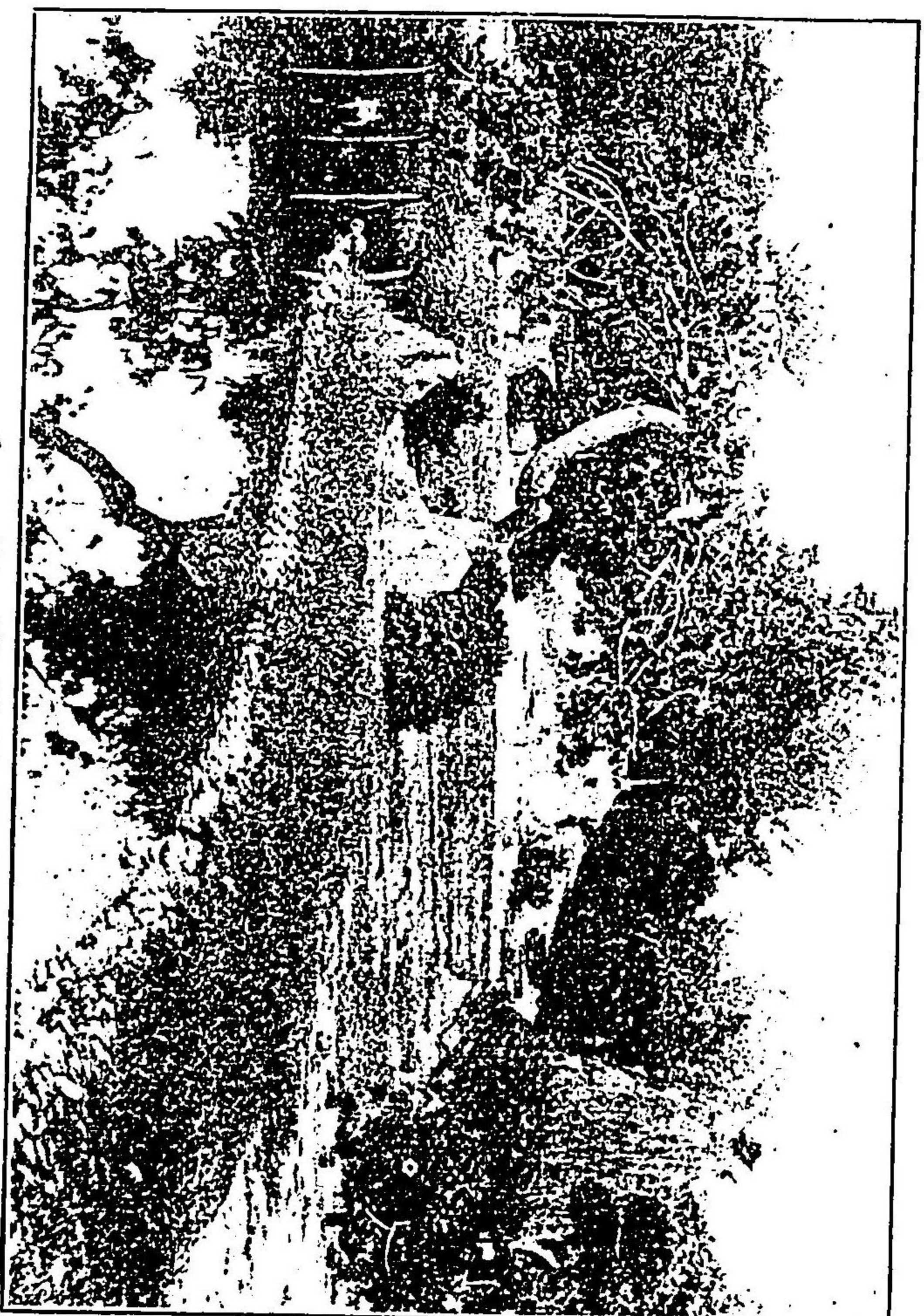
※四



社 神 原 松

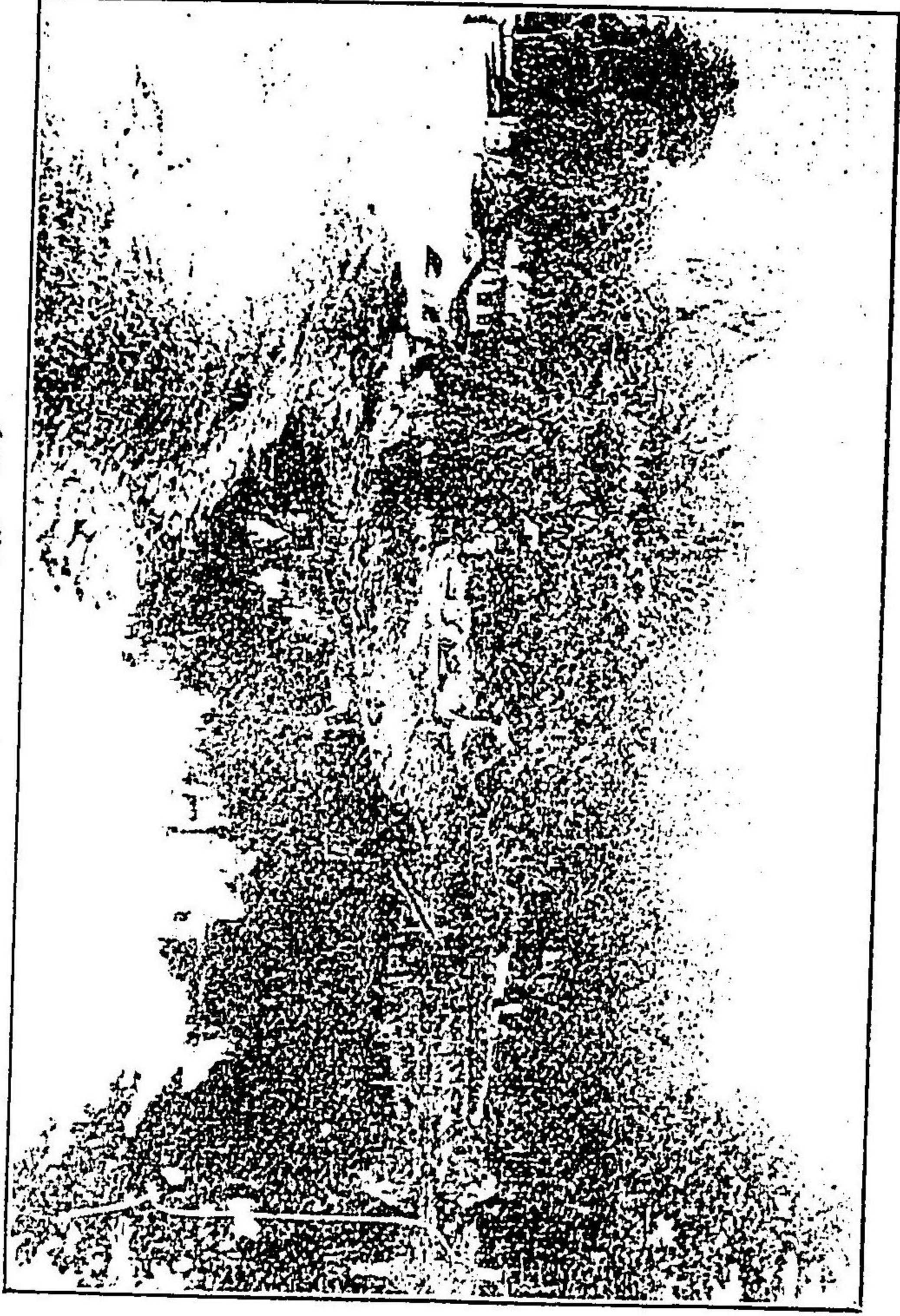


社 神 原 松



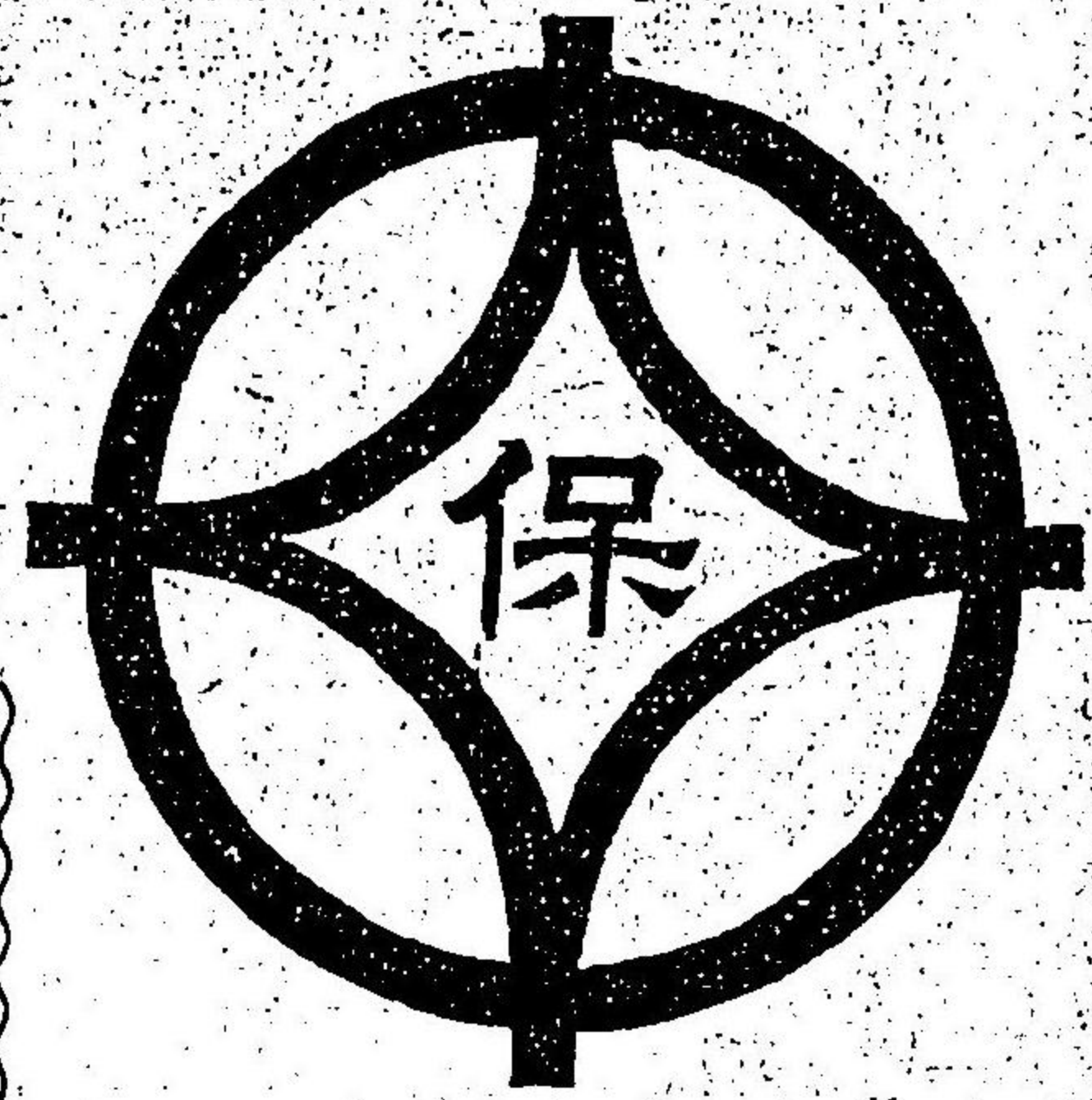
(一 共) 苑神社原松

全 上 (二集)



新案特許靴下

一バカ



本品陸海軍人諸官衙會社員學生其外總て洋裝の御方が常に沓下の履ひに用ふれば只に沓下の汚れざるのみならず遠足するも足痛を感せず加之使用輕便裁優美且つ堅牢なる事確に五倍以上を保つ利益あり尙沓足袋又は室内上草履の代用として未嘗有の徳用品なり本品の如何に重寶にして使用上快活なるかは御使用の上御賞揚を乞ふ 本品は最寄雜貨店に販賣せり
●特約販賣御望の方は特に御相談可致候

製造元

大阪市東區博愛町三丁目

藤

井

喜

兵

衛

佐賀縣一手販賣

佐賀市元町

杉町吳服店

佐賀代理店

米 佐賀市元町 杉町半藏

出張所

九州

出張所

本店

大阪市東區備後町四丁目 (電話特東四九番)

大阪火災保險株式會社

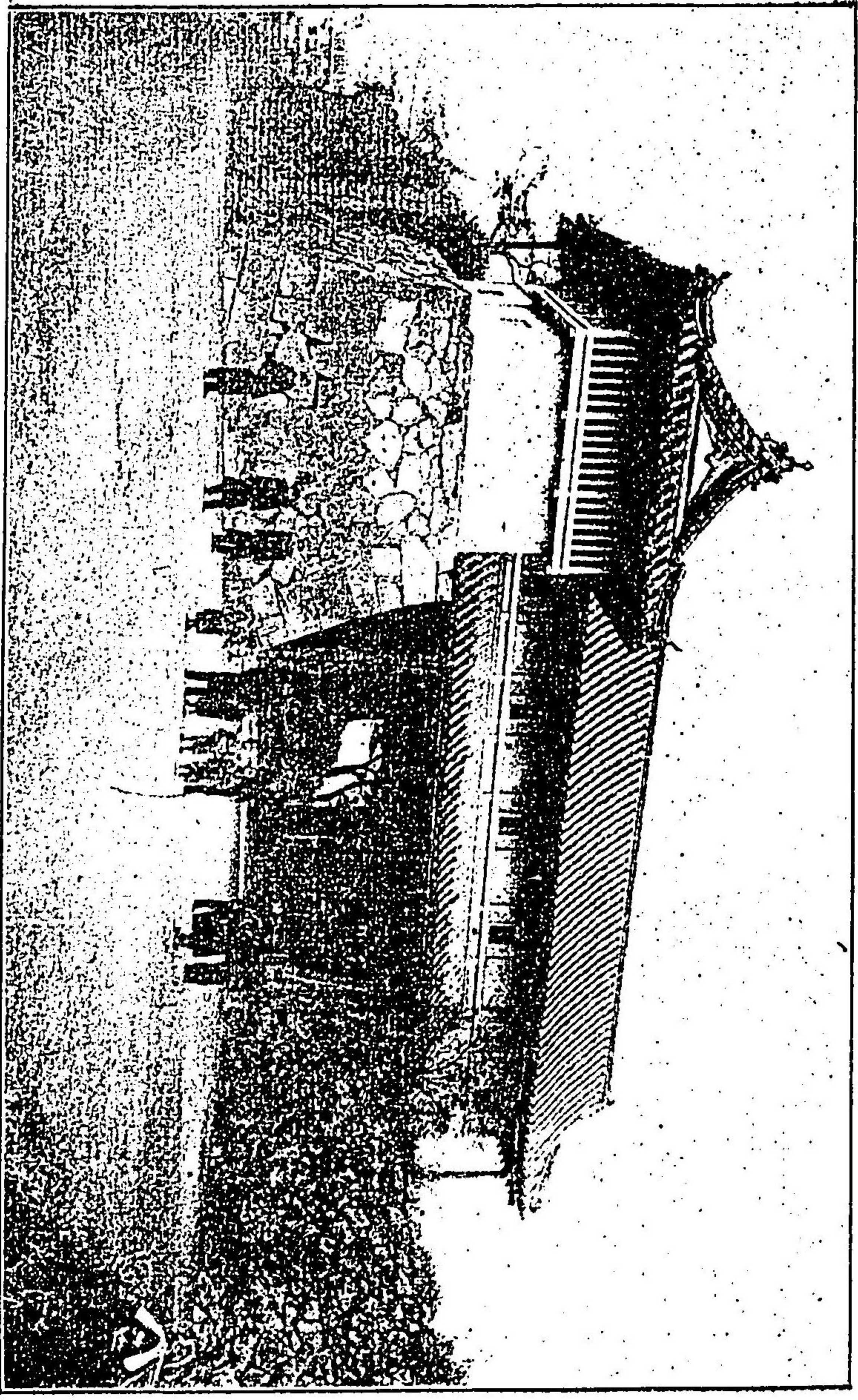
門司市東本町四丁目

呉服太物卸小賣

米 杉町吳服店

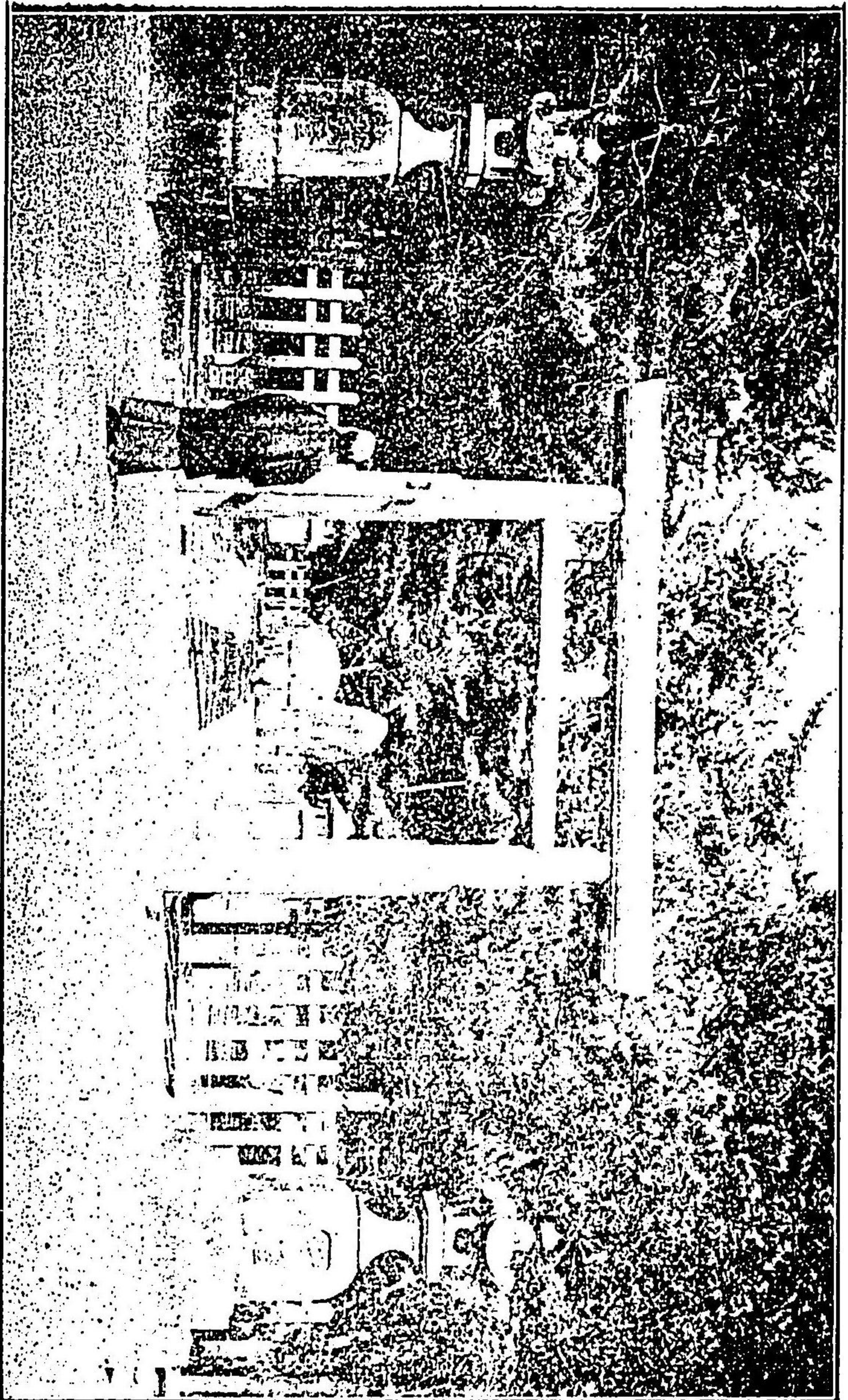
佐賀市元町三ツ角

度量衡器販賣所

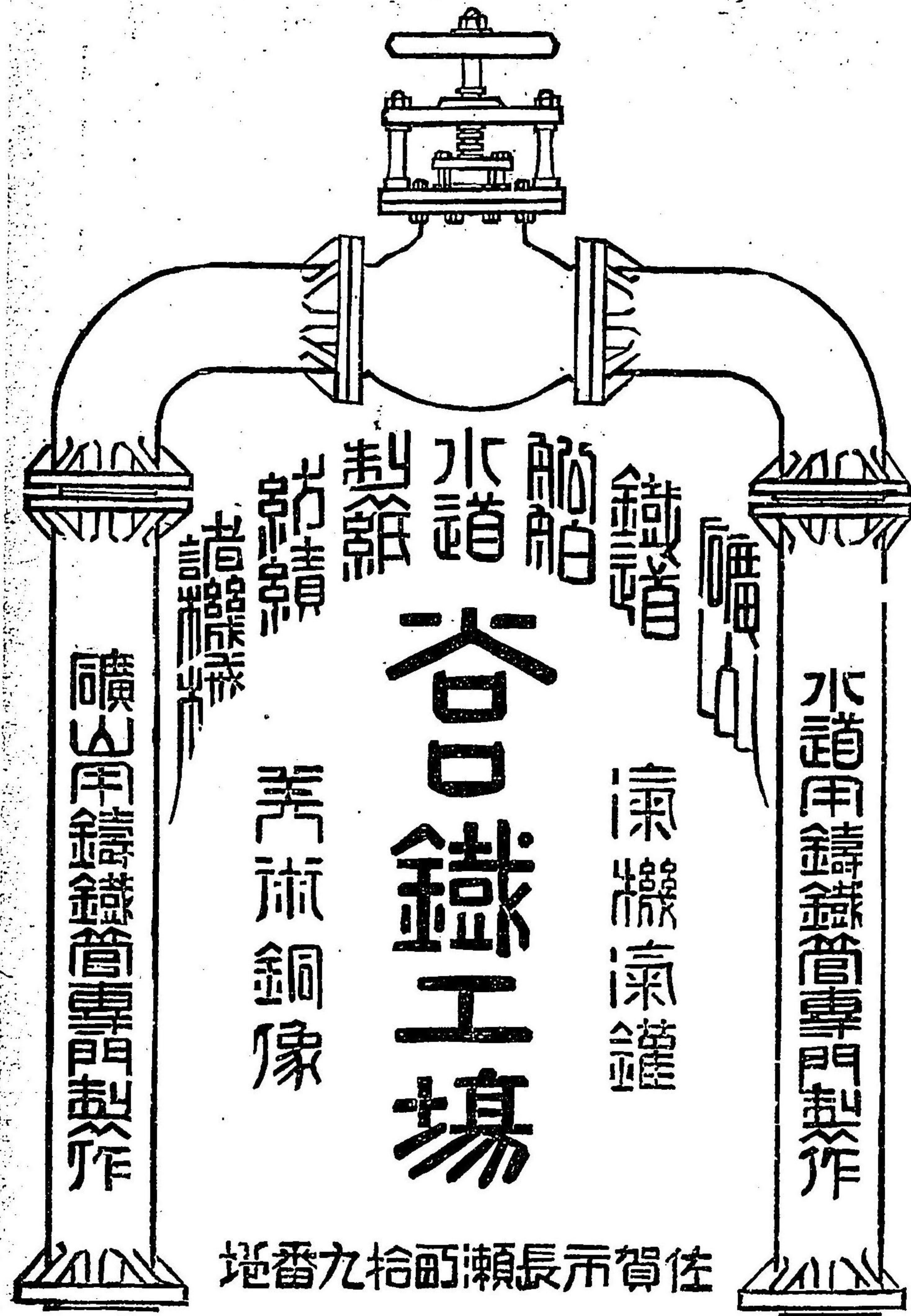


佐賀蓮城の門





所 基 御 の 山 日 春



谷口鐵工場

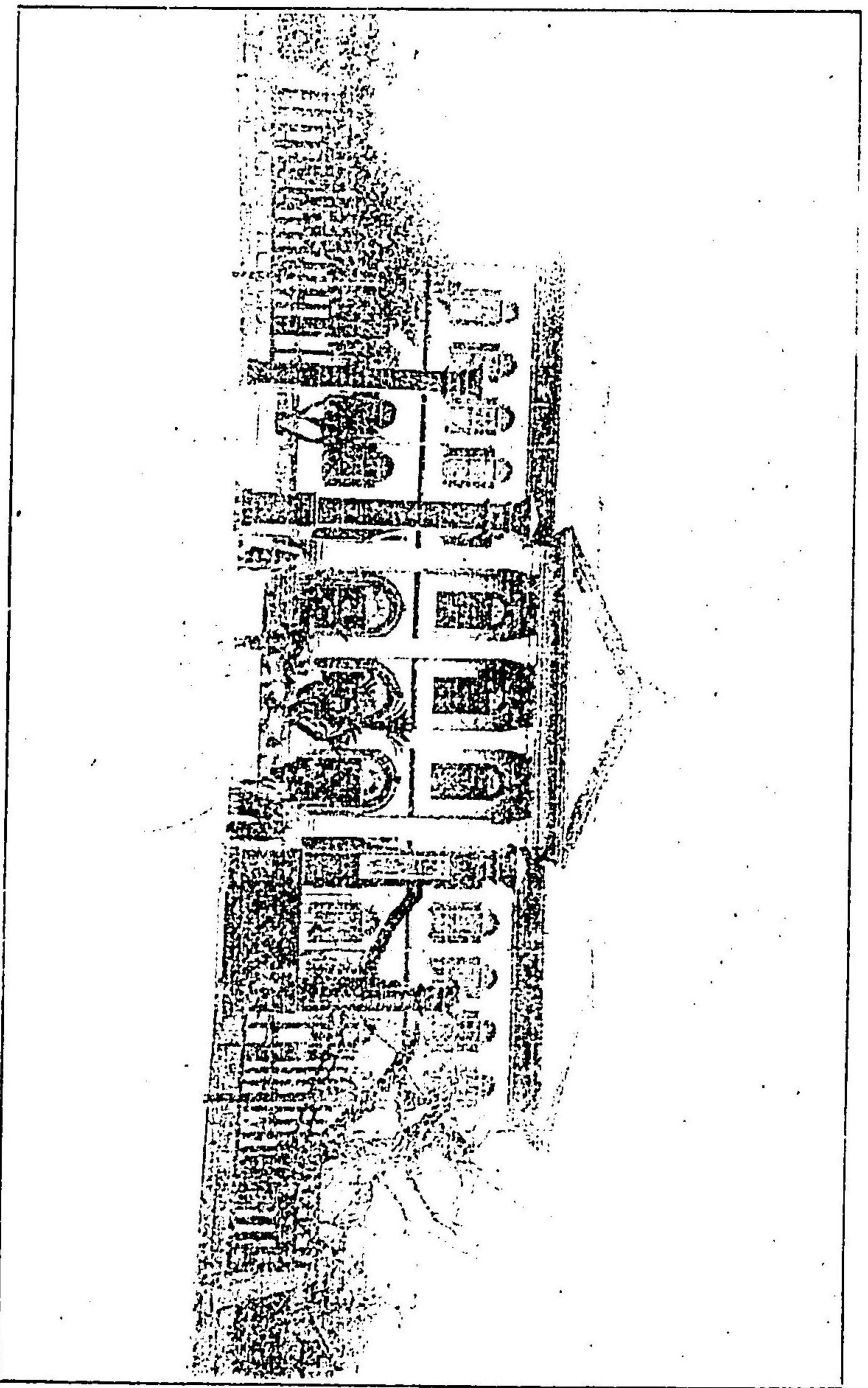
水筒用鐵管專門製作

鐵管 汽機汽罐

船舶 水道 製糖 精糖 美南銅像

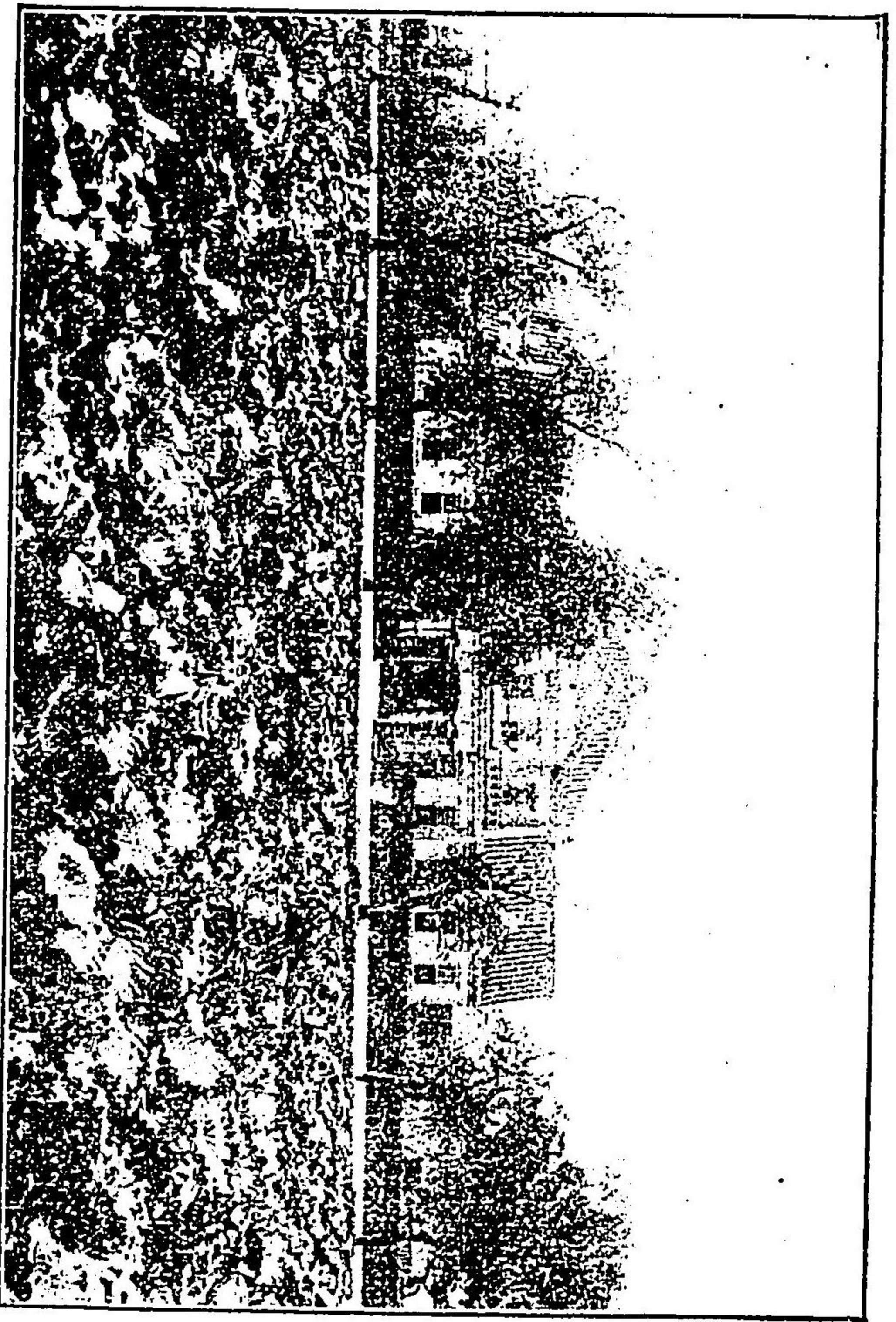
礦山用鐵管專門製作

佐賀市長瀬町九番地



應縣寶佐

專賣 特許 上妻流裙形
 中外紙類一式
 交厚具類卸商
 野中商店
 市邊波町
 一手販賣



縣 會 議 事 堂



景の上川び及なや

齒科



井内齒科療院廣告

院主井内管次ハ文久二年齒科専門修業シ志ヲ立テ
爾來研究ニ刻勵スルコト多年ニシテ其後洋法齒科
醫術ヲ習得シ明治十六年當市ニ開業シ以テ今日ニ
至ル蓋シ地方ニ於ケル齒科ノ泰斗ナリ
業務擴張ト共ニ器械材料ヲ完備シ一層熱心ト懇切
トヲ旨トシ

一般ノ義齒。齒痛治療。無
痛拔牙。充填。其他口中一切ノ治

術。ヲ施シ其妙技ニ感セシムルヲ期ス

治療ハ最新式ヲ應用シ加フルニ熟練ノ助手之ヲ輔

佐シテ患者ニ便利ヲ與フ

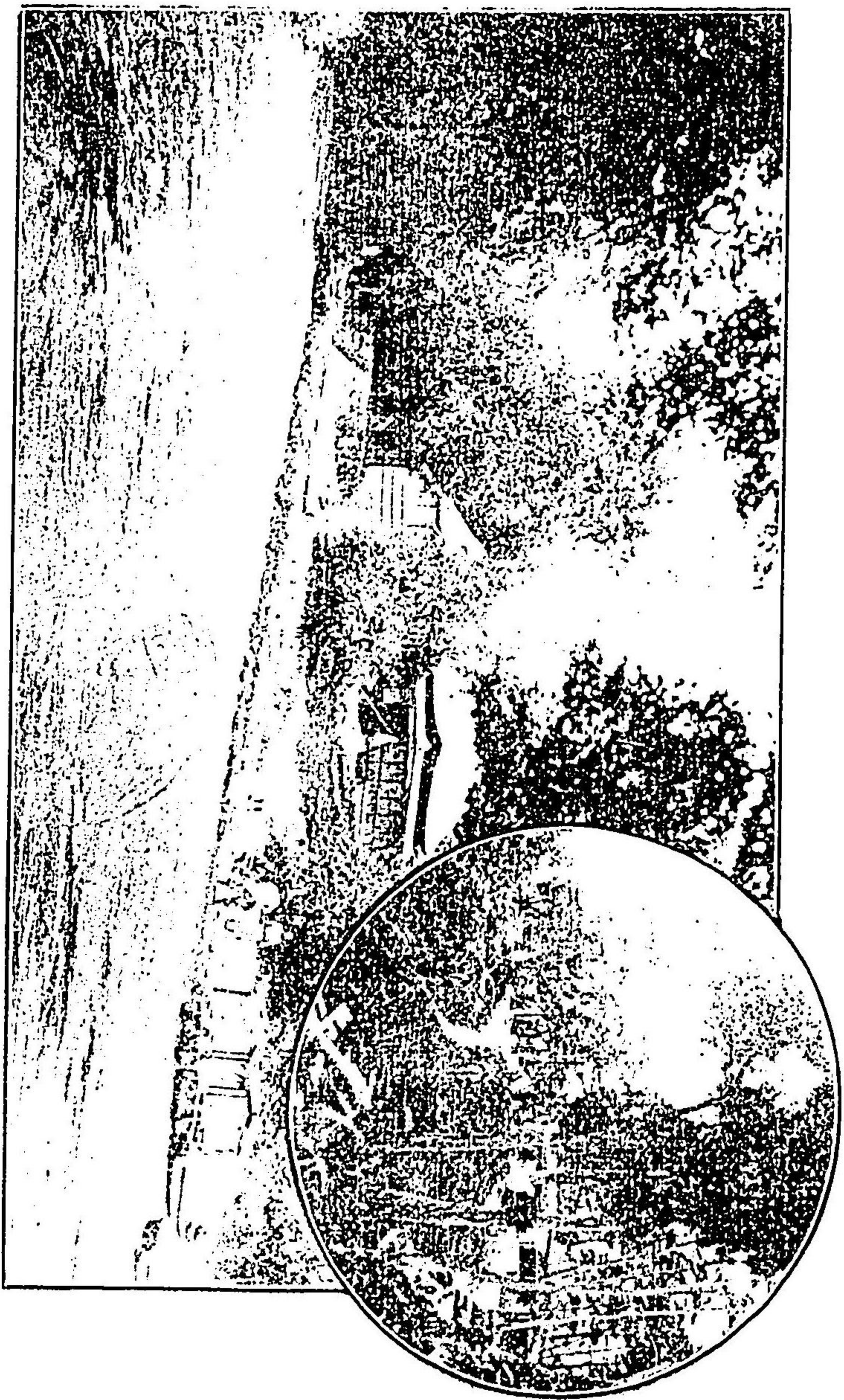
本院 佐賀市松原町字通小路北側

井内齒科療院

出張所 小城郡小城町字北小路（銀行前内田方出

張隔日毎隔日）

川上川の流多布壠川に岐る、所、即石井、是佐野の水
川地、泉、天狗鼻、天巧に、影、水利、妙、極、是、成、元、和
年間、築、水、功、紀、念、碑、の、影、水、く、河、水、に、漂、ふ



景の樋井石び及碑の安茂庫兵宮成



佐賀停車場前凱凱門



山陽鐵道特約荷扱所

九州鐵道貨物取扱所

唐津釜山若津丸荷扱所
定期漁船

佐賀馬鐵特約荷扱所



肥前伊万里

あみ地販賣

西

亀

巾着網并ニ鱒流之網社ニ至方御便利御相成申上矣

はしがき

お手前味憎ぢやないけれど、お客様方のやんややんやの御最負に、預り度いためばつかりに、他方の案内者とは事かはり、私の脛の續く限り、私の腮のなえるまで、ありとあらゆる佐賀近在の、名勝舊蹟は申すも愚か、お宿の世話からお買ひ物、さてはお土産のしらべまで、何から何まで御案内申し、ちつともお客様にお不自由させまいと、新に出た此の案内者、ではあるが新参

者のことぢやから、或は至らぬ處がないとは限らぬ、
夫は大目で御勘忍を願ひ、若しやお氣に召したことが
あつたなら、お歸り遊ばしてからの御評判、やんやや
んやの御最負を、ごうかまの讀者方、願ひ申して置
きますわい

丙午三月

著者申す

佐賀案内

筑紫野守著

徳川の流れ瀾りし其の昔は、三十六萬石の大名鍋島侯の御城下、茲
三百年の繁榮は、明治の維新に消え失せしとにはあらざるも、今は
却つて、昔寂しかりし佐世保、長崎の繁華に及ばねど、佐賀には又
佐賀の名所あり、舊蹟あり、名物あり、所自慢にあらねども、元龜
天正の剛の者（但し九州にて）龍造寺隆信の墓あり、七年の亂にて
彈痕巢の如く當時を追想せしむる佐賀城の古蹟もあり、さては神野
お茶屋の勝地あり、四季の眺めも常盤にてわけては春は櫻花、秋は
月見に一杯を鮎の下物に傾け給ふべき、川上川の勝景も三里に足ら

ぬ北にあり、明治名代なだいの名物男江藤新平めいぶつやとこまぞうしんぺいの墓碑ぼみもあり、若し夫れ上戸の口には、鼻うごめかす甘露かんろの如き名酒あり、下戸のお方は丸房まるぼ露あ、加壽貞良かすてらあり、商工業家の爲には工場、會社、商店あり、汽車の鬱うつは清蓮せいれん、楊柳ようりゅう、花月かげつ、などあり、以て旅の憂うさを拂はらふべく、以て疲れを慰なぐさむるに足る、急ぎ給はぬ旅ならば言はずもがな、急ぎの旅のお方でも、一度は足を止め給ひ、名所舊蹟ゆいせんを遊覽ゆうらんし、併ひせて名物めいぶつを味あじひ給へがし、但し舌鼓したつみな鳴らすと鳴らさぬとは、これは諸君の御勝手ごかつてたる可し。

○佐賀の稱呼の來歴

佐賀の名の起りは、其の傳つとふる處種々ところいろくありて、何れも一廉ひとかじの信ずべき（或る方より云へば信を置き難い）筋すぢあり、其の中最も信を置

くべきものによれば、昔樟樹かしじよじゆの甚だ高くして、そして榮さかえたるが
ありけり、日本武尊やまとたけるのみこと巡行し給ひしをり、これを見て、此の地は榮さか
えの國と云ふべしとのたまへりと、是に因よて榮さかの郡と云ひしと、
これを轉てんじて佐嘉さかの郡と云ひ、又徳川氏の初頃はじめころ、佐賀さかの文字に改
めしと、されば佐嘉の郡にありしをもて、佐嘉と呼びしか、後佐
賀と改めけるならん、さればにや佐賀の異名いみよを榮城はいじやうとも、又榮陽はいよう
とも云ふ、兎角とかく名稱めいじゆの來歴はこれ位に止めて、其の成立は、いか
にと云へば

○佐賀市の成立

▲廣ひろ狭せ…東西一里二十二丁二十三間半

…南北二十丁

…面積零方里二分五厘

▲位置：佐賀郡の中央部

▲戸数：五千壹百餘戸

▲人口：三萬二千餘人

年々増加の傾きあるも甚だ著しからず

▲交通：九州鐵道市の北端を東西に通ず、北端、新町より川上(二里)

を経て、熊の川(温泉地凡五里)古湯(温泉地凡六里)を經、唐

津港に通ずる縣道。

南、水ヶ江町より諸富港に達する國道、一里半、馬鐵の便あり。

東、牛島町より國道二里弱にして、神埼町を通り久留米市及

博多市に達す

西、八戸町より徳方を通り、小城町唐津港へ、又武雄町、伊

萬里町へ、又長崎市へ達す

▲水運：厘外津、高橋、今宿より舟にて諸富、諫早、天草、島原等

への便あり

▲町數：唐人町、白山町、元町、吳服町、蓮池町、柳町、新馬場、

片田江通りは、最も繁華なる町なり

其外牛島、東田代、紺屋、今宿、材木、高木、上芦、水ヶ江、

赤松、松原、寺、新、中、米屋、岸川、伊勢屋、伊勢屋本、

與賀、西田代、點合、六座、道祖元、本庄、長瀬、八戸、厘

外津、等に分れたり

▲産物：織物佐賀ネル 扇町緞通 其他：酒類：菓子、丸芳露、

加壽貞良：團扇：硝子：鐵器：貝杓子：素麵：奈良漬

…漆器

附市場に集まるもの：柿：釣柿：葛：野菜：西瓜：瓜：蜜柑：
リンゴ：（以上は主に唐人町）泥猴魚（有明海の特産珍魚）

▲官衙 縣廳（舊城内） 監獄署（全上） 測候所（全上） 縣會議事堂
（全上） 警察署（松原町） 地方裁判所（全上中ノ小路） 區裁
判所（松原町入幡小路） 佐賀郡役所（松原町中ノ小路） 市役
所（北堀端） 稅務署（與賀町） 郵便電信局（白山町） 熊本大
林區佐賀小林區署（松原町）

▲銀行 百六銀行（新馬場裏門） 榮銀行（與賀馬場） 佐賀銀行（蓮
池町） 佐賀縣農工銀行（白山町） 佐賀貯蓄銀行（吳服町）

▲學校 佐賀縣師範學校（舊城内） 佐賀中學校（全上） 縣立高等女學
校（全上） 私立成美女學校（全上） 縣立工業學校（水ヶ江町） 縣
立農學校（神野村） 私立第五佛教中學校（片田江） 佐賀高等小

學校佐賀高等女子小學校勸興尋常小學校（共に北堀端） 循誘
尋常小學校（柳町） 日新尋常小學校（六座町）

▲新聞 佐賀新聞（松原社前） 西肥日報（中の小路）

▲其他 米穀取引所（新馬場）：物産陳列場（北堀端）：農事試驗場
（神野村）：縣立病院好生館（片田江）私立池田病院（院長池田醫
學博士十間端）：商業會議所（縣廳通り）武德會支部（奮武館と
云ふ縣廳の裏にあり）内庫所（舊佐賀藩主鍋島侯の内庫たり、
佐賀藩の歴史古蹟等を調査せんと思ふ人は、就て尋ねらるべ
し。松原社の南、宗龍寺そりゅうじの前にあり）

▲工場、商店、神社、佛閣、勝地、古蹟、等は以下に詳記すること
とす

松原神社………俗に日峯社と云ふ

停車場より南十丁、新馬場通りを前にして、松原川に沿へり
松原川の清流滾々として圍繞し、老楠蒼々として境内を蔽ひ、新馬
場通りの繁榮を前に控へたれど、俗塵にまみれず、市内第一の宏壯
なる社なり、そも鍋島氏の祖先の靈をまつるところ、左なるは龍造
寺家にして、中なるは直茂公及勝茂公を合祀し、右なるは維新の賢
君直正公を祀る。首め直茂公（法號を日峯と云ふ）を祀れるを以て、
日峯社とも呼ぶ。明和庚寅の年、治茂の代に廟を建てたるに始まれ
り。樽乎たる老楠は、枝を交へて澄みちぎつたる緩やかなる流に映
じて、閑雅幽邃に、壯嚴の意は自ら頭の下るを覺ゆ、白砂敷つめた
る間、燈籠は行儀正しくキチント立ち並び、有田産の陶器製あり、

大理石製あり、青銅の鯨（舊城鯨の門にありしもの）あり、繪馬堂あ
り、歩を社南に轉すれば神苑なり

因に曰ふ、毎年四月十日十一日、十月十日十一日は例祭あり。十
月の例祭には、近郷より浮立の催しをなして、神前に舞樂す。此
浮立は肥前國特獨の風習演技にして、全國未だ其の技を見ず。蓋
し笛、太鼓、鐘などの鳴物を鳴して、囃し立て、奇天烈の假面、
假装をなして、種々の舞樂をなすものなり。

○松原社神苑

奉能堂と相對して築山を設け、松原の清流を引きて池を漚へ、おも
しろう作りなしたる松の幾株、常盤の色濃く、檻を設けて飼ひなし
たる丹頂の鶴、さては静かなる池の面に波立て、緋鯉の泳ぐなど、

げに神苑としてうるはしう景色よし、わけて春まだ淺き如月の、肌
 うす寒きをり、梅は綻びて人の訪ふをまち、彌生の空麗らかなる時は、
 曙の花の色香艶麗に、暮れ行く春を送る藤波の花紫匂ひ、夏の夕に
 ソヨ吹く松原の川風に、裕衣の袖をなぶらせて、茶亭にアイスクリ
 ームを飲むも可なるべく、築山の彼方、泉水の此方、散策の杖を曳
 くもよろしく、月さやかなる秋の夕は、泉水の汀や、築山の石に腰
 打ちかけ、虫の音に秋の夜の趣を味へば、月は池の面に映じて清き
 川底に澄み、思はぬ方に入幡の鐘の聞ゆるに耳を傾くるも神苑の趣
 味ぞかし。若し夫れ雪の晨の景色は、又格別の趣きあり。
 苑内に直正公紀勳の碑あり。碑材は羅馬國産の大理石なり其の銘に

明治十五年八月吉日
 忠 故從二位藤原朝臣直正宣力封疆夙

勳 竭方面之職盡心皇室承贊維新之功
 之 國家柱石臣庶儀型忽聞淪逝良功悼
 碑 傷因贈正二位以彰其功勞宣
 從三位直大謹書

明治四年辛未正月二十三日忝公之恩榮士菅原種臣拜書

贊御之臣 成富清風建
 百武兼行
 佐賀謁閑叟公廟 秋月種樹

制度寮中度外人 維新之初公任制度寮總裁戲賦此詩 閑公此句戲陰呻
 今過佐賀多追感 拜跪昭明殿察神 昭明殿者祀鍋島 侯爵累世之神也

松原神苑 谷口藍田
 罪微朝雨柳煙籠 魚躍清波數曲中 往日廟謀誰第一 忠勳碑聳玉玲瓏

○名主鍋島閑叟公

文化十一年江戸邸ていに生る、父を齊直なりなほ、幼名を貞丸さだまると云ひ、齊正なりまさと稱し、後直正のちなほまさと改め、閑叟かんそうと號す。幼より詩、歌に巧たくみなりしが、晩年ばんねんは優遊花月ゆうゆうかげつの間に吟詠ぎんたいを恣ほじにせり。嘉永の初年がいはくとらい外船渡來がいふくとらいしてより、海岸かいがんの警備けいびに心を碎くだき、長崎港の固かために意を盡し、砲臺を築き、或は西洋式せいせいしきの反射爐はんしゃろを以て鐵を熔とし、巨駁きよばくを鑄造ちゆうぞうするなど、全國諸藩に率先そつせんせる、大に稱すべきものあり。内は國政を勵み民を憐あはれみ、外は朝廷を尊み國事を計り、維新の功こう、蓋けだし其の多きに居る。例へば版籍封土はんせきほうどを奉還ほうかんして、他藩を倣ならはしめたる如く、黄金七十萬兩と軍艦、蒸汽船の献納けんのうの如き、照々しやうしやうとして千代人の稱揚しやうりやうする所、兎角とかくに日本歴史に異彩いさいを放はなちし維新の功業こうぎやうと、幕府時代の賢君として歴史の

ページを彩いろどりたる公は、又偉人なる哉、又賢君なる哉、明治四年正月十八日享年五十八を以て薨す。官位は從二位大納言に至りぬ。後功を賞して正二位を贈られ、明治三十三年又從一位を贈り追賞ついでしやうせらる。嗚呼又快ならずや。

公の重なる事蹟じせきの一般を揚あぐれば其の顯著けんちやくなるもの。

- 1、他藩に率先そつせんして西洋式蒸汽機關せいせいしきじやうきかんを使用し或は反射爐はんしゃろを使用する等文明の先導せんどうをなすこと。
- 2、全國に率先そつせんして牛痘種ぎゅうとうしゆを藩民一般に行ひしこと。
- 3、全國に率先そつせんして硝子製造業等理化學的工業を始められしこと。
- 4、文、武の學問、技藝術ぎげいじゆつを奨勵しやうれいせられしこと。
- 5、仁慈じんじの政を施ほごし、勤儉貯蓄きんけんちゆくを奨勵しやうれいせられしこと。
- 6、維新の際、王事に盡じんされしこと。

公の文藻に富みたりしを一例すれば

呈水戸黃門

回頭世上謾紛々 敢以毀譽付白雲
 天下英雄纔屈指 平生知己獨逢君
 林梢風斂鳥聲滑 欄角日暄梅花薰
 自戒宴安如鳩毒 往來治國要勳勞
 孤鳥結團意氣豪 西南決皆萬重濤
 黠奴若有窺邊事 羶血飽膏日本刀

○招魂社

市内川原小路にありて、川上川の支流多布施川の清き流れに沿へる社なり。境内閑靜にして古松幾株枝を交へて河水に映じ、老楠蒼乎

として神靈を鎮むるに似たり。あはれ明治戊辰の役、王事に斃れたる佐賀藩士の、忠魂を千載に吊ひ、義魄を萬代に慰めんために、藩知事鍋島直大公の建てられたるものなり。詣で、忠節を頌し、英靈を吊ふ亦美事にあらずや。

○征韓憂國黨碑

招魂社の南側にあり、春を急いではかなくも、明治七年二月の嵐に散り失せし、狂ひ咲きの花の爲に立てられたり、(江藤新平島義勇氏以下戦死せし佐賀兵の招魂碑)

(碑面)嗚呼諸君子之碑

(碑陰)爲明治七年戦死諸士建之

明治十八年四月

佐賀有志者

○楠神社

市の北端にして八幡社の西側境内にあり。拜殿は明治三十三年の秋、九州の平野に於て大演習ありしをり、陛下の御名代として、小松宮殿下當市に御立寄遊ばされしとき、佐賀停車場に御休憩所を新築しけるを、移したるものにて、神殿は其の時新築したるものなり、當社は楠公の像を安置し祀りたるものにして、實に寛永三年に創建せしものなり、楠公父子の誠忠を稱へ其の靈を祀りしは、全國佐賀を以て最も初めならんか。彼の水戸光圀公、淡川の建礮(元祿十二年)に先のこと、實に二十九年なり。抑々これが創設をなしは、佐賀藩の志士、深江平兵衛入道信溪なり。爾來志士の間、祭祀を行ひたりしが、其の後社殿荒廢に歸したりしを、明治三十六年に至り、又

佐賀村上藥館製劑

滋養強壯、肺病、胃病、衰弱症の大効藥

人參清勇圓

のみよき
ねりやく

腦病のほせ。頭痛。神經病の良劑

腦強丸

鎮痙藥に
て下劑を
味せず
加

外拾七方製劑元

佐賀市伊勢屋町

藥劑師 村上上玉雄

内品商外



各國流行

各種靴調進所

弊店ノ主ノ意
素品ノ撰擇
體裁ノ優美
製造ノ堅牢
營業ノ確實



(定價表ハ御一報次第進呈ス)

佐賀市吳服町

谷口製靴店

十種出版發賣

内外書籍
新聞雜誌
大賣捌所

佐賀繪葉書發行元

鹿ラケット一手販賣

佐賀市吳服町

書肆 大坪惇信堂

造營の効を竣へぬ。佐賀の地を通らん人、結構の美はよしや、淡川神社に及ばずとも、斯かる因縁ある神社なれば、一度詣で、日本忠臣の龜鑑たる父子の神靈を慰め、誠忠を偲びたまふも、これ日本民族の義務ならんかな。

○ 興賀神社

興賀馬場にある興賀大明神は、肥前國の三大古社の一にして、欽明天皇の御代の勸請なり。肥前三大古社とは、川上流鏑神社、神埼町櫛田神社及當社なり。社内老楠蒼々として、社殿古雅に多布施の支流を前に控へて靜幽なり。境内に一殿あり、七月七日(陰曆)七夕祭りを行ふ。其の輻軸は一願の價あらんか。

○八幡社

一八

龍造寺季益（今より凡六百年ばかり以前の人？）鎌倉鶴ヶ岡八幡宮を此の地に勧請して、天下泰平、國家安全を祈りたりと。白山町の西、八幡小路の北にあり。龍造寺八幡とも呼ぶ。楠公社はその境内にあり。佐賀停車場を去る南凡六丁

○伊勢屋町太神宮

佐賀停車場を距る西南凡十二丁伊勢屋町にあり。天正十九年、太守藤原朝臣鍋島直茂の建立なり。もとは佐賀郡柿久（蟬久）村にありけるを、此處に移し給ひしとか。境内閑雅、銀杏の梢高さ下に、千木神さびて鎮みませり。舊壹月十一日金銀の鶏替への神事あり

○牛嶋天満宮

は牛島町にありて、田圃に臨み、境内老楠數株鬱蒼として枝を交へ閑靜なり。三百年以前の建立ならん。停車場より東南凡十四丁

○佐賀城の今昔

佐賀城は、別名を赤松城とも、榮城とも、又龜甲城とも呼ぶ。周圍凡一里、平地の城なり。

榮々に榮わし赤松の梢凌ぎて、ヌット聳わたる天主臺、さすがは三十六萬石の大名の居城、打統らすに一里にあまる碧なす底深き濠を以てし、三百年の封建の俤を、漫ろに偲ばしめしはこれ三十餘年の昔の夢、なべて世は明治の維新に封建制度の瓦壞と共に、桑田變じて蒼海となりし中にも、此の榮城はご其の著しきはあらじ。いで其

の梗概を語らん。抑々佐賀城は久壽中（今より凡七百五十年前）龍造寺季喜、肥前の監代となつて始めて居城せし處なり。されど未だ城郭と名くべき程のものにはあらざりしが、其の後隆信、天正の際、鬪争を事とし殆んど寧日なく、近くは神代遠くは鳥津、大友に對する爲、天正四年四方の外郭を修めしが、復慶長年間鍋島勝茂の時に至りて、始めて巍然たる樓櫓を築き、繞らすに湟濠底深く、爾來三百年、昔ながらに登城下城の麻袴の武士も絶えまなければ、櫓の太鼓も明六つ暮六つを報せしが、世は明治となり、人の心も何だか穩かですして騒がしい様な中に、四年五年も過ぎ六年までは暮れたれど、明くれば七年の二月、佐賀の野には時ならぬ狂ひ咲きの櫻一本春を急いで徒に散り失せぬ、おはれ明治維新の名物男江藤新平が、征韓論の容れられざるを憤り冠を掛けて郷國に歸り、少壯子弟に推

されて佐賀城に籠れる官兵を圍みぬ。二月一日曉深かく、市人の夢を破つて轟ける一發の大砲は、天主を碎き二ノ丸を焼き三の丸を灰となし、唯僅に残りしは牙城と鯨の門とのみ、おはれ三百年の城郭、只一朝にして灰燼となれり。恨み多しども又惜しき限りなりき。今は牙城も次第に壞れ行きて、僅かに残れるは師範學校の女子部となりぬ。若し心あらん人は一夕杖を曳きて到り見よ、蘿草のまとへる數株の老松、秋の風に將た春の雨に、仰惚はしむる種となり、鯨の門に留まれる蜂の巢なせる無数の彈痕は、七年の乱の紀念物にして、其の激戦のさま思ひやられ、仆れたる敵味方の、幾千の武士の怨みのたまのこもれるあとを偲べば、悽愴の感漫に胸を衝き、當年の幻影髣髴として映じ出でん。

○名代の名物男江藤新平

君は佐賀の人、諱は胤雄、南白と号す、維新前より王事に心を砕きしが、後、中辨に任せられ、つぎて文部大輔左院副議長に進み、五年参議兼司法卿となりぬ。律令三百八十條を定め、又司法権を行政権より分ち、各縣に裁判所を設けたるなど、其の功其の勞、よく人の知る所なり。

かくも王事に盡したる彼れ、一度征韓論の容れられざるや、西郷、副島、板垣等と共に職を辭し、後又板垣、副島等と民選議院の建議をなししが、これ亦行はれず。怏々として樂まざりしが、會々佐賀藩士族に推戴せられて、さきの王事に盡粹せしもの、今は誤つて鳥義勇等と共に難を國に構へぬ。あはれ其の心事を洞察せば、其の

行は憎むべきも、必ず衷心耿耿たる赤誠の國を思ふて、然ゆる如かりしを知るに難からざらん。かくすればかくなるものと知りながら、己むにやまれぬ一片の情誼黙し難く、二月一日兵を佐賀に擧げぬ。集まるもの二千五百人、やがて敗れて西郷隆盛に倚りぬ、隆盛容れず、又土佐に走りぬ、板垣亦容れず、遂に土佐田浦にて捕へられ、四月十三日其の徒十餘人と斬に處せられ、其の首は梟せられぬ。時に享年四十、あはれ明治名代の名物男逝いて茲に三十餘年!! 若し一步を誤らざらしめば、必ず國家の元勳として柱石として、世の尊敬と信頼とを受けたらんを!!! 朝敵の汚名は枯骨に印して、未來永劫消ゆるときなきをいかにせん、君の恨み夫れいかばかり、あはれ舊城内の西南隅なる君が碑を訪へば、晝尚梟の聲棲きところ、老いて桂のまつばれる松のもと、竹林のかけに悄然として、恨むが

如くまた訴ふるが如く佇める墓碑は、千秋君が功と罪とを偲はしめて、松の筆はハラ〜と雨の袂を濡ほす!!!

若し佐賀の地を通らん人は、一度は必ず此の名物男の碑を訪ひ、一掬の同情を注ぎ給へ、よし其の罪は憎むべくとも、其の功は偉大にして千載に没すべからざるを、況んや其の衷心を洞察せば、忠君愛國の念に狂して身を誤れるをや!!!今茲に其の心情を披瀝せる詩一絶を掲ぐ、吟誦の間彼の前半生の意氣、風姿、髣髴として映出せん、

欲報三邦家海嶽恩 慷慨杖劍出關門

辰星落々風蕭索 毛髮衝冠肝膽寒

皇道久衰羊大豕 滿腔慷慨吐誰前

一封密奏回天策 淚濺東山秋暮烟

雙松山房集

我慕江藤子 卓落一偉人 雄辯發處

挫鬼又打神 材大不容世 長揖辭帝闈

惜哉連城器 自碎不自珍

これを誦せば、彼の爲人蓋し思ひ半に過きんかな。

○ 柘堀端の清香

舊城を廻る壹里の濠は、三十餘年の前までは、碧みちぎつたる水、底も知られぬほど深くして、佐賀城主要の要害なりしが、今は泥深くして水淺きも、廣き幅は少しも變りなく、水鳥の群れて浮びたる昔の閑雅なる俤は、變して滿池蓮を以て填められ、水漸く温にしては、卷葉の若葉水鳥の浪なつるにつれて、ゆらく〜と動くさまも、

さては城内の老松、古楠の影、洒々たる竹林の影、岸の揚柳と影と
 競うて映する様、詩趣に富める人の目には、さてもおもしろかるべ
 く、西堀端と北堀端との角より、遠く縣廳を眺むれば、白揚の影、
 波靜かなる池水に映じ、白壁皎々たる洋風の縣廳、縣會議事堂、揚
 柳の梢を凌いで聳わたるさま、市内第一の眺めならんか。若し淋雨
 新に霽るれば満池蓮を以て蔽はれ、紅蓮白蓮は咲きみちて芳芬漲
 り、微風一たび徐ろに渡れば、清香郁々として衣袂に薫じ、月明か
 なる夕、逍遙微吟すれば、荷葉万個の玲瓏たる玉を頂き、微風一た
 びそよげば轉々玉をころがして、其の美、其の趣、其の景、人をし
 て恍然たらしめん。秋風一度池面を渡れば、黄ばみたる葉折れたる
 枝、ザワ／＼と音して蕭殺の景、詩趣自ら湧かんかな。されば四時
 (特に春と夏とは)逍遙の人三三五五たり(お堀蓮根は有名なり其味

亦甘し)

○高寺の鐘聲

「鐘は上野か淺草か」と云ふほど趣味はないけれど、佐賀十八町の人
 々が、辿れる夢路のおぼろにも、一―二―三つの捨鐘を、數ふる高
 寺の鐘の音も、晝は雜鬧の爲、よく傳はらざるが、十八町に人足絶
 え、街巷の軒燈影はのぐらき時間縫うて響く嫋々の餘韻には感深
 きものを。まして旅館の燈火幽かにして、寢かへりうつ旅人の夢路、
 或は亂れて、萬感の湧き出でざるを得ざるや否や。
 (鐘樓は八幡社の前にあり。人或は八幡の鐘とも云ふ毎時に時を報
 ず)



○多布施河畔の松籟

趣味なき頭腦には頓と、何處がよいやら感ずまいけれど、佐賀市に最も詩的にして、最も趣味あるものは、清流多布施河畔の逍遙ならんか。

川上川の支流が佐賀市に入るまでの、一帯の川沿ひの堤防なり。市の西北より、斜に北にはえたる多布施の河畔は、兩岸は詩的にまがりくねりたる老松が、枝を交へて流水を蔽ひ、影は流れ去る清澄の河水に映じて、底の金沙銀砂も動き出さんばかりにて、松が根は白砂路を埋みて、踏めばサクサクと音しておもしろく、脊振山は遠く雲州の間に屹ち、天山は淡く雲際に頭を現はし、一帯の出園、山の裾まで連り、人家遠近に部落をなし、其の景其の趣、燕文の能く寫

し得ざるを憾む(神野お茶屋農學校附近一帯を最もよろしとなす)。夏の旣、秋の宵、杖を曳かば曉氣松の梢より來りて、芳露はすがくしき衣袖を濡ほし、月光は緑の梢を漏れて、流水黄金白金の玉を掠して去り、梢の松籟は悉々彈するが如く、虫聲亦叢に和して、詩趣盡くるなく、興湧いて百篇の詩立るに成らん。

○神野お茶屋

佐賀停車場より西北凡十丁、多布施川畔松青水明の間に、弘化三年二月藩主閑叟公經營せられき。公政務の餘暇を、此の閑雅幽邃なる別館に吟遊せられたり。池の水は至つて清く、まきたる砂は雪の如く、珍草、花木四時に絶えず。春淺くしては寒梅芳葩を漲らし、酣にしては櫻雲白砂を蔽ひ、紫のゆかりの色の藤の花最も名高く、杜

若池邊に咲きみち、夕闇に、幽かなる河畔の松籟に耳を清めて、螢を撲つべく、龍田姫のきまさば、紅葉、築山の彼方に爛として錦の如く、雪の晨の景、またえも云ひがたく、遠く北に脊振一帯の山を控へ、西は天山元として頂を雲に蔽はれ、南西遙かに、淡墨で而も一はけにぼかした様に、多良の山脉の連るさま、幕府の老儒佐藤一齊翁が「無限青山亭」と題せしも實に故あるかな。

○弘道館

日本三弘道館と稱せられたる、佐賀藩學弘道館は天明二年二月、藩主治茂の創設なり。始め松原にありしが、直正天保十年北堀端に移して擴張せり。敷地五千四百餘坪、通學所、寄宿所等完備せりと。學科は和、漢、兵、筆道、習禮、算術、槍、劔、柔、弓、馬、炮術、

水練、洋學等にして、又後更に醫學、海軍學校を建つ。明治の名士江藤、大木伯、副島伯、佐野伯、大隈伯、中牟田子、眞木子、鍋島幹男、楠田英世男、相浦男等も此の館に於て薰陶せられし人なり。今は高等小學、勸興尋常校等となりて、昔の片影もなし。

◎附向榮橋より川に沿ふて下ること二丁ばかりに、武富氏邸内に依仁亭の跡あり。聖堂碑文あり。心あらん人は行いて見らるべし。

◎附佐賀人士にして物故せし最も知名の士は古賀精里(寛政三博士)成富兵庫茂安(永祿年中に生れ、土木、水利に精通し、千栗堤防、及佐賀の水源地、石關に於ける事業特に著し)忠吉。(元和頃の人、刀匠にして名あり)

正 禮 標 商 確 實

丸屋呉服店

町元市賀佐 店商六彌堀内

○ 乾 亨 院 (南堀端東詰少し南に入る所にあり)

大楠の怪談、コンニヤクベツタリにて名ある乾亨院は、今は荒れは
 てゝ見る影もなし。されど明治七年の乱、佐賀兵の彈丸劍戟に彊れ
 たる官兵の。忠勇義烈なる遺骸を葬むれるところにして、大理石の
 碑も今は苔むして、忠勳空しく緑苔に埋れんとす。心あらん人は、
 此の王事に仆れたる士の靈を吊ふも亦可ならずや。新しき君國の殉
 難者には、溢るゝ同情を寄するものが、等しく國難に身を殉したる、
 古き戦死者に同情を瀉ぐことの薄きには、必ず其の厚薄を地下に曝
 けるならん。あはれ行いて一掬の水を手向け、其の靈を慰むるに吝
 なり給ふなかれ。

○ 願 正 寺



高木町にあり、本派本願寺にして、佐賀縣の巨刹きよさつなり。堂宇どうう宏壯にして、本尊は行基の製作に係る阿彌陀如來なり。慶長五年三月壽閣大和尚の開基にして、現今の堂宇は元祿十四年の再築なり。本堂茶所・方丈・客殿・鐘樓等あり。境内一萬坪ばかり、毎年一月九日より十六日まで報恩講あり。春秋の兩彼岸會と共に、遠近の善男善女詣つるもの引きもきれず。

○稱念寺

元町にありて堂宇願正寺に次ぐ、巨刹なり。淨土宗に屬す

○本行寺

西田代町本行寺ほんぎょうじ小路にあり、日蓮宗にして永正十五年十月の建立なり。今の堂宇は文化三年の改築なり。老樹は枝を交へ市内有數の勝

地なり。

○宗龍寺

松原神社の南舊城内にあり、曹洞派禪宗にして市内の巨刹なり

○龍泰寺

龍泰寺小路にありて曹洞派禪宗にしてこれも亦市内の巨刹なり
其他市内に小寺數多ありされど著しきものにあらざるを以て略す

○高傳禪寺

(本庄村にあり)

市を西南に離るゝと數丁、田園の中にあり。鍋島氏の菩提所なり。
明治四年其祖先の墳墓の散在せるを、悉く此處に移して永遠の維持
を計られたり。少閑をぬすんで至り見よ。松の枝かはせるさまのみや
びたる、山門堂宇の壯嚴、美麗なる、境内の洒瀟なる、實に侯爵家

の菩提所たるに耻ぢず。肅謹以て墳塋に入れは、天正の豪傑隆信を
始めとして、累代の靈の鎮まれる幾十の碑塔は、已に苔むせるあり、
尙新らしきあり、往事の幻影の朧朦として映じ出でん。

附此寺に藏せる涅槃像は甚有名なり。非常なる大幅にして畫圖亦
傑作の評あり。

○法勝寺

(俊寛僧都の墓あり)

佐賀停車場を距る一里ばかり、市の西、佐賀郡嘉瀬村にあり。國道
の北側に「俊寛僧都舊蹟」法勝寺と刻める碑のあるところ即これなり
抑々嘉瀬(昔は鹿背と書けり)は平教盛の所領なりしは明かにして疑
ひなきことなり。又鬼界島の流人に、肥前國鹿背より舟にて、竊か
に衣食を贈りたりしも、平家物語源平盛衰記の明記しむりて、世人

の事實と認むる所なり。されば其の舊蹟とは何ぞ、當時鹿背の庄の里正荒木乘觀は、俊寛が獨り赦免に漏れて、荒磯の浪に袂を濡らすを憐み、之を撫護しけるに、島物語にて誰も知れる家僮有王が、涙の袂を絞りつゝ、遙々と誼ひ來りしが、治承四年の春、俊寛病て歿りぬ。有王なきからなりともせめては都の地へと志し、此の地まで持ち來りぬとか、(幾くもなく有王亦病歿しければ、此の地に共に葬りと傳ふ信偽不明) 右大將頼朝、法勝寺の名を移し、俊寛の爲に寺を此處に建つ、これ此の法勝寺なり。當時一大巨刹なりしが、星移り物變りて、今は昔の跡とては、ささやかなる一小庵と、其の盛りなしと下されたる源頼朝の下文、門脇中納言の間免状と、白色玲瓏にして、其の質堅き小介の密集して、蝦蟇の形せる石塊とのみなり。是ぞ世に傳ふるところの俊寛の愛せし蝦蟇の化石なると。一尺二三寸ば

かりもあらん、其の大きさは。俊寛の墓は本堂の良位にあり、驕る平家を仆さんと、志士と共に謀れる鹿谷の別荘の密議は、惡運強き清盛の爲に鬼界ヶ島の荒磯浪の涙となりて、赦面に洩れし俊寛僧都、潜に此地(嘉瀬)に月日送りしが(全寺の舊記を考證)、都の土とはなりもせで、怨恨永久に嘉瀬の土に埋もれて、千秋人の吊ふなく、怨魂日月の光を遮る槐樹の下に、陰に籠りて蓮華基石の上墓碑悄然たり。

碑面銘 治承四年三月二十三日

俊 寛 僧 都 塔

青苔の蝕むに任せて哀れなり

西肥古蹟詠に

雨暗風腥鬼界邊 流人血淚灑蒼烟
 大赦何圖恩澤漏 三年跼跡叫皇天
 たましひや返り行きけむ、行く船も焦る、胸の一人残して、

有王の墓。俊寛の墓を距る僅に數百步、永源寺と云ひし寺跡の、今は田となれる中に、一畝歩計の小高き空地に、塔頭の古墳あり。これを俗に有王塚と呼ぶ。(信偽は保せず)生きては萬里の波濤を凌ぎて、鬼住む島に主に仕へ、死しては異郷の土となることを主と共にす。彼の忠、彼の義、偲び出で、感涙止めがたし。西肥古蹟詠に

奔哭堪悲戀主心 逐臣罪戾獨何深

荒原瘞猶源姓 號泣相携殉海濤

まこゝろにつかへし人の跡とへば

塚のすゝきに秋風を吹く

○川上の絶勝

佐賀停車場を北に凡二里、脊振の連山と天山脉との其の縫ひ目をウ

ネリ／＼て流れ、崖を跳る瀑となりて白布をかけ、雪の飛沫となりて岩を噛み、水聲滔々、峯の松風と相和する川上川の急流が、頓に平野に入るところ、これ川上の絶勝なり。地勢、山急に盡き、山地と平野との分るる所なるを以て、山の姿、平野の見晴し、水の趣、何れも得がたきの景なり。

まして文珠山、春日山左岸にありて、松の佇ひ妙に、淀姫神社、實相院右岸にあり、峰巒秀麗に、春酣にしては兩岸の櫻爛熳として河に映じ、夏は長橋(觀進橋)の上、深山を出で水の面を吹き來る川風に、浴衣の袂なぶらせ又は舟を流に浮べて納涼も可なるべく、秋は文殊、春日の山の頂を照らす月の光、瀬々に映れる金波、銀波を、漂ひ流すも興あるべくまして嵯峨野の奥の松風も、斯くやと思はるゝ峯の松風、耳を清うし、實相院の鐘の音、亦詩趣を催さしむ。冬の

夜は遠近の森の梟の聲も、峯の嵐にさそはれてめづべく、雪の晨の眺、亦詩人の一興たらん。糸山貞幹翁の歌に
櫻あり、月おもしろし、雪もよし、

此の川上ぞ住むべかりける

○川上の鮎

川上の鮎を味はざれば未だ鮎の眞の味を語るべからず。天下に香魚なるもの、恐らく川上川産の右に出づるものなからん。古の風土記にも肥大、美味なることを傳へ、大なるは尺餘、夏より漁夫釣して客人の賞味にまかせ、秋に至れば築して(秋の彼岸の中日最も多し)之を捕へ、炙りて柑酸(醬油を加味す)に浸して、客の膳に上す、高尙なる饌なり。築に落つる鮎を見つゝ、潑々たる香魚の炙りを下物とし、此の絶景を賞して杯を傾ぐる、又無上の快なるべく、文珠山

頭の月を眺め、春日山の松風を友として、酒杯の間吟咏を恣にするも、亦興盡くることなけん。

副島蒼海先生(伯爵種臣先生)の詩に

橘柚橙柑秋共黄 遊人無日不思郷

肥前粳稻三百萬 川上年魚尺許長

附川上宿及都渡城村には、人家數十、茶亭幾多あり。以て來遊の人の、希望を満たすに足る。

○川上の古戰場

又川上は、龍造寺と神代との古戰場にして、萬馬の嘶き、矢叫びの音の、絶まなかりしが、今は幽邃閑雅詩人墨客の優遊にまかせ、茶亭軒を連ぬるも敢て俗氣なく、雅も俗も共に興あるところなり。

西肥古蹟詠に

河上帳營據上游。一時猛將競雄秋
如何累葉葉家卒 屍積丘山落水流

ふりし世の靡ぎにも似ず櫻さく

この河上に人を群れくる

○縣社淀姫神社

祭神は淀姫命よこひめのみこと、一名空津比賣命又豐姫命と云ひ、神功皇后の妹姫なり。三韓征伐に従て功ありきと云ふ。欽明天皇二十五年十月の建立に係る。肥前の三大古社なり。川上川の清流を左にし、古杉の樹立せるところ、社殿宏壯。幽邃なり。右傍に神木老楠あり。今は枯れて幹のみを存すれども、非常なる大木にして、大明までも名木として知られたりきと。蒼海伯そうかいはくの「火國鎮守」の扁額あり。

○實相院

淀姫神社の西側にあり。本尊は薬師如來にて、和銅五年僧行基ぎよきの開基せしもの、幾多の變遷を経て今日に至る。仁王門に神通密寺じんづうみつじの勅額を掲く。中門・敕使門・通用門等あり。嘉永七年火災に罹り焼失せしが、今僅に方丈・客殿・土藏二ヶ所をあますのみ。實物としては、源頼朝・北條暨及び鎮西諸將の書疏、百餘通を藏す。心あらん人は、就て見らるべし。毎年陰曆三月五日より十五日まで經會きやうゑあり。四方より參詣の男女螺集あひしゅうす。清き川上の水は院の麓を流れ、後には連山れんざんせまり來て、前には佐賀の市街基布ごふし、筑紫の平野一望の間にあつまり、遠くは温泉。多良の山々淡墨たんぼくに彩り、有明の沖。千歳川の流、雲霞の間うんかに認められ、肥筑一帯の山河模糊さんかもことして、其の眺望筆舌ひつせつの盡くす所にあらず。況して境内老松の蟠屈はんくつせるえも云ふべからず。
附水上山みづあみざんは實相院の西方一里にあり、言ひ傳ふる如くんば、壽永の

乱に、王子難を避け此に來り、遂に雉髮して神子と稱し、宋に入り
經山寺に至り、佛鑑和尚に従ひ、衣鉢を受けて歸り、此の山に寺を
關く、衣冠・劍・履・僧服・猶存すと。

西肥古蹟詠に曰

八島戰塵白日昏 后妃奔竄泣皇孫

建文天子傳衣鉢 千載儼然祠廟存

个もなほ仰ふがれにけり。山寺を

開きし君が法のすがたは。

尙全寺の山内に、安徳天皇の御陵と稱するものあり。陵山と号す。
史學家の考證を待ちて眞偽判定せん。佐賀の故人の記録には、此
に關する記事多少あり。

大友軍の古戰場八幡原も程近し。

○川上の御茶屋

川上川の東岸、小高き山の上、松の老いたるもとに、十可亭と云ふ
あり。そもこれは藩主閑叟公退隱後營築して、遊息所となし、處に
して、都人來村にあれども、普通に之を川上の御茶屋と云ふ。亭上坐
ながら築を觀るへく、左は文珠の峰を控へ都渡城に連り。右は實相
院及び淀姫の祠に對し、清勝閑雅にして、佐賀城北の一仙郷たり。
閑叟公此亭に在て賦せられたる詩歌數首あり。一二をあぐれば

河上偶作

雨後群巒雲髻堆 滿溪新水碧於苔

春風頗解醉人意 撲雨飛花作雪來

全

河上溪山秋是奇 雲林圖畫放翁詩

木樨花開酸柑熟 正是香魚欲下時

都人來なる十可亭に一夜ねて
よもすがらやな瀬の音の高ければ
旅ならねども夢も結ばず

○春日山の墓所（川上川の東岸川上より東二三町）

奥まりたる春日山の幽かなる峯に、枝交す松の木立、日の光を蔽ひて、秋は日ぐらしの聲に、寂しさを春春日山のおくづき、あはれ春日山頭、代赭土の一面平かなる壘の如くして、常盤なる松の、瑟瑟たる響たえで、遙かに川上川の岩に激する水聲と相和して、閑靜なる念と、森嚴なる感との、禁する能はざるが、墓標の榊、緑の色も稍あせたるほどり、尙ほありありと讀まるゝは、「原肥前國守累遷從二位大納言贈正二位藤原朝臣直正郷之墓明治四年辛未二月十八日薨」の文字さへあるに、其の後には全じ様の形せる墓の、小ささが「古

川與一源松根之墓」の文字も、尙あざやかなり。さるにてもこはいかに、契り深き君臣か、死して黄泉の下に尙君として彼を愛撫し、彼尙臣として身に犬馬の勞をとる。彼が碑陰の歌に

今はとて急くや終ひの旅衣

たちおくるべき身にしあらねば

君ひとりのこしまつりて古さに

かへる心のあらねばこそあらめ

と誦せば、早や此の美はしき而も悲惨なる物語を、更めて説くの要なけん。辭世の歌を誦せば、遙けき峯より吹き下す松風に、はらくと散る松の雫は、両の袂を濡はせつ、川上川の水聲は夢の如くに聞ゆ。

附松根は與一と稱し、寧樂園、霞庵等の別號あり。幼より閑叟公の御側附となり、江戸に在て香川景樹に歌を學び、當時の諸名家と交り、又書畫を學びて皆其の妙を究め、名聲甚た高く、寸楮も人争ふて求め、愛玩嘆賞するに至る。明治四年正月十八日公薨し給ふに及び、哀傷禁ずること能はず、同二十一日地下に伴隨して瞑府の門に入りき。あはれ其義烈なることよ。時に年五十九。初夢合、裘儀畧、嵯峽の棗、松根筆記等の著あり

○金立山

川上村より東一里弱、金立村に聳ゆ。孝靈^{こうれい}天皇の七十二年、秦始皇^{しんのしこ}方士徐福^{じよふく}をして、東海に入り、不老不死^{ふろふし}の靈藥を求めしむ。徐福、童男女數百人を率ゐ、海に浮び日本に來り留る。徐福始め此の山に隠れ、後、紀州熊野に移りきと。

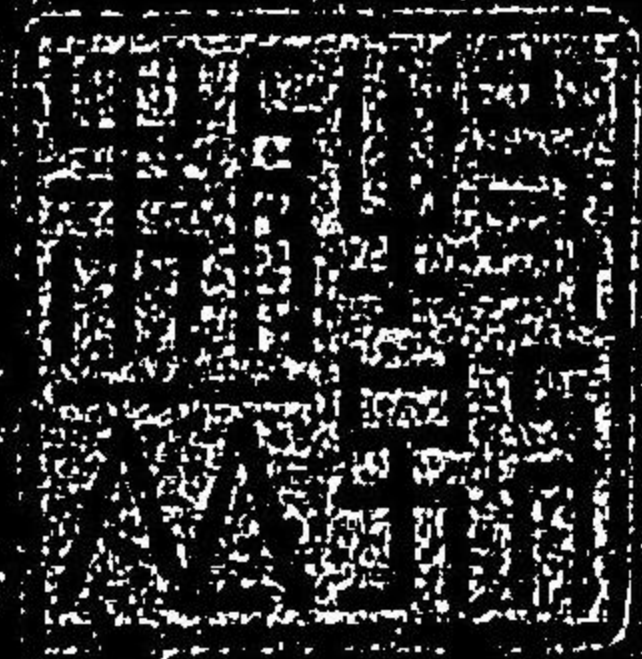
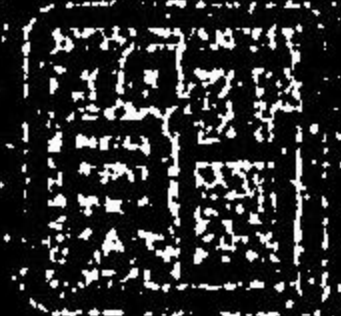
海軍用品
標商



大由館

佐賀市縣立病院前

製造元 古賀貞三郎



佐賀市八幡小路
印刻土山崎遠翠

金立神社 金立山にあり。保食神、岡象女、神相殿徐福を祭る、建
立の年月不詳。

○鬼岩屋

金立村川久保村より、神崎郡の山際に數百の石窟あり。土人鬼の岩
屋と呼ぶ。上古穴居のあとか。但しは上古の墓地か、兎角考古學者
の好史料たらん。

附川上附近の古蹟（春日村にある分）

甘南備神社 祭神天兒屋根命にて建立の年月詳ならず。三代實錄
に、本社に従五位下を奉られけることゞも見ゆ。（大日本史に
も見ゆ古社なり然れども今は村社なり）

甘南備城 延暦中、甘南備高直肥前守に任す。大同、弘仁の間、
大宰少監西海道觀察使に任し此に居る。一條帝の時藤原中納言

文時左遷せられ、來て此處に居る云々。就て探るの要あらん。

西肥古蹟詠

緬懷延歷大同辰 南備名殘不見人

天網解紐王風熄 兵戟侵尋幾百春

あまなひの名のみかすかに残れども

鐘の音さへ高き山寺

高城寺 龜山天皇の御宇、文永七年の創建にして、古文書を藏すと。甘南備城の趾にあるならんか。

春日部屯倉 安閑天皇の二年五月、始めて春日部の屯倉を置き給ふと。其の跡詳ならず

國分寺 聖武帝の天平十三年に、詔して設けしめられたる國分寺の跡あり。今國分寺村云ふ其の國分尼寺は今尼寺村と云ふ所か、玉林寺 後小松天皇の敕願所なりと。川上よりは程近し。

「所變れは品變る」と云ふ諺もあり、佐賀には又佐賀の方言あり敢て奇を好むにはあらねど、著しきものを、二三對照して一覽に供す。

佐賀方言と普通語との對照

方言

普通語

- イレンサッタ……………言はれました
- インサッタ……………おつしやいました
- イカンバンタ……………できませんよ
- イヤバンタ……………若くは行きませんよ
- インマ……………さらひですよ(嫌の意)
- インマ……………後刻こく又はあとでの意
- イッセンバ……………理髮りはつ床
- イットキバツカイ……………暫時さんじ(しばらく)
- イッチョー……………一ツ

イカンニャー……………たんせん(歎息の語)意の如くならざる意
 イラーゴタゴザンセン……………いな(言ひたくございません)
 インニャー……………いな(否の意)(否定の意)
 イツコン……………び(一尾)魚を數ふるときに用ゐる
 イツピャー……………はい(一坏)強く云ふ時溢るゝ意
 イヒユーポー……………ふう風變の人間…頑固の意もあり
 イケバヨシ……………あくかん悪漢又はころづき
 □クッーナワロー……………ろく碌でない人の意
 パバシカ……………かさ嵩の大きなるを云ふ
 ハチキタ(クル)……………はちハチと云ふは接頭語にして語を強める爲に云ふ
 ハラキヤータ……………たふ(立腹の意)腹立てた
 ハンネータ……………ばな離れた
 ハゲシカモン……………いせお勢ひ猛きものゝ意
 パッテン……………たけだけれども…ですげれども

ニダメク……………ムシアツイ
 ニエーノスツ……………句ひのします
 ニーゴトシンサツカイ……………何事なさいますか
 ホメク(ホメカス)……………あつ炎暑烈しきことを云ふホメク天
 ホトメク……………き氣でございます
 ホトクナカ……………よくよくもてなす意
 ホンニ……………拙劣の意
 ホンポーニャーワカラシ……………ほんほんごに…實にの意
 ヘゲタ……………ほんホンポーは正確の意にて、しか
 ペロイシタ……………ごごわからん
 ベライシタ……………な弱り果て、困り果てるを云ふ
 トゴユ……………へヘゲタと略全様の意適當の譯語
 トッピョシモナカ……………なしなし
 トトシカモノ……………な皮などの剥げたときに云ふ
 ……な滑稽的動作をなすを云ふ
 ……な案外案外實に案外との意
 ……な動作の遅緩なる者を云ふ

トヒヨモナカ……………とほりもないの意

ドーローコーロー……………ごりやらこりやらの意

トツケラート……………ゆつくりとの意

チンバ……………跛者

チンヂユ……………髪の毛の縮みたるを云ふ

チンヂユীগミ……………チヂレゲ

チキ……………天秤

チカッ……………少し

チヨードヨカバンター……………

發音弱きときは恰もたるしの意なれども強きときは謝絶の意となる例教へて下さらんでもちよーごよかばんた教へくれんなら教へなくつてもよろしいとムツトシタ意

リ

ヌカイミチ……………泥濘でいぬいの爲めに道悪きを云ふ

ヌタカ(ヌタボー)……………不潔なこと不潔な人の意

ヌスクラキヤーテオンサッ……………真面目まじめくさつていらっしやる

スライオードーモン……………ののじる語名譽心も廉恥心もなく義理も道理分らない非常な鐵面皮なものと云ふ意

スライクライ……………爲す事々徒に遊ぶとを云ふ

ワルボームスコ……………見下げて人を呼ぶ語

カシキハイシタ……………實力に應しぬとをなしたカスキ

カシキハイシタ……………弱く云ふときは辭退する會釋となり強く云へばムツトして構ひなさるな干渉なさるなの意

カシキハイシタ……………實力に應しぬとをなしたカスキ

ヨサイ……………よる(夜)

ヨセーイキヨッパンター……………他へ出かけてゐますよ

ヨカバンター……………いらぬいと云ふ意ともなる

ヨカロー……………よろしうございませう又はもうよろしからうからおよしなさいの意ともなる

ヨソワシカ……………恐ろしいの意

ヨメクサン……………嫁さん

ヨンゴーヒンゴー……………ゆがみひがみ

タンポートイ……………糞溺取るもの

タンナンサン……………旦那様

レ……………嫌な(生意氣な)人だことよとの意に近し

ソギヤン……………其の通り

ソイパッテン……………夫だけれども夫ですけれども

ソイカラソーシューダッタ……………それからさう致しませうよ

ソラヤッパンター…トランカンター……………ソラはお手を促す言葉ソラやりますよソラあけますよソラおどりなさいませ

ツンボー……………耳の遠きを云ふ

ツクシカモンナター……………美しいものですことね

ヅレヅレ……………不整にし乱雑の意

ツンバイコーテオコータンター……………ささえておさませうよ

ヅクニユー……………うちまけた頭

ネッカラハッカラワカランバンター……………全くわからないよ又は全くわかりませんよ

ネタボー……………寝ぼけ

ネンネー(ネネ)……………赤兒一二歳の兒

ネマイメシ(ネマツツ)……………腐敗した飯又は腐敗してゐる

ナイボー……………癩病患者

ナイ……………ハイ(答フル言)

ナカバンター……………

ございませんよ又はありませんよ

ナンチユーモンカー……………

カーどヒクキハ物を悪しくするヒカヌキハ何と云ふものかの問意

ナイカンター……………

何ですか何でございますか

ナラシ……………

手拭着物などをかけるもの

ラチカチモナカ……………

引きしまりのなき意又は乱雑の意

ムクハゲモノ……………

容赦もなう

ムイヤイ……………

むりやり

ムズーガル……………

カワユガル

ムカイ……………

嘔氣のさすこと

ムツカイシタ……………

相手の言動の意外なるに愛想の盡きて心に怒ること

ウラメシゲーナカ……………

しみじみとうらめしいとよの意

ウチノダンナンサン……………

うちの旦那様

ウツカンゲタ……………うちこわれた

辞

ノスカイ……………

娼妓

ノスッポ……………

放蕩づくもの(ナマケモノノ意)

ノメツラ……………

廉恥心名譽心等なきものつらつきの意

オロチーテキタ……………

急遽にして稍うろたへてきた意

オシヤー(オカズ)……………

副食物

オーケンナカ……………

減りやすいこと

オオンサイマッセンチャッタ……………

ゐらっしゃいませんでした

オケタン……………

麵屋

オローメヅラシカオツサシブリー……………

おやめつらしいことよ久しぶり

オイデンサイタ……………

にお出でなさいました

オクモジ……………

菜漬

オドマー……………

自分たちはの意

オゾミンサッタ……………お目覺ましなさいました
 オメーコガケモナカ……………思ひ氣付もなかつた
 オツケ……………おつゆ(汁)
 オードーナモン……………悪しき度胸のすわつたものの意
 オコーノモン(コーノモン)……………澤庵漬
 グンニヤイ……………氣力勢力衰へて凋れたるを云ふ
 グーラシカ……………肩身のせまき意
 グライスル……………覆倒又は落膽失望又は勞れると
 クル……………しかる意
 グワシシ……………あばた
 グシヤ……………鹿雜の狀を云ふ
 ヤッテヤイバナシ……………むやみやたらにの意又混亂無規
 マグレタ……………律の意
 マタテ……………氣絶した
 ホンニ

マチゴゴツゾマチエーモン……………まぢがふと云つたつてこんなとは
 マイトキヤーデケマッセンテッヂヤ……………まぢがふもんでないにこんなと
 タバンタ……………迄まぢがつた者た
 マンザラ知ラン人デバシアッカ……………今暫くは出來ませんと云ふこと
 タ……………でございませしたよ
 タ……………全く知らない人ではしあります
 ケーマカ……………かネ
 ケブカ……………小さい
 フロンッキヤータケンオイーオンサイ……………湯が沸きましたからおはいりな
 フーシューガイカ……………さいませ
 フイモン(オフイモン)……………腫物等がへんニ痒ゆき時の言
 履物
 フーケンサイ……………親しき間柄に對手の言動を否定
 フーシューショギヤースカン……………する場合例フーケンサイをぎや
 ゴラン(コロ)(コラ)……………心もんかんだ
 ……心からすかない意
 ……妻なごと呼ぶことば

コッチャーナモン……………厄介なもん
 コーチユーサンノ代カラアル……………年代久しき時ある意剛志は肥前にて最久しき人と思はれてゐる
 コイハデモナカモンノ……………四十年ばかり前の人
 コリヤナイカー……………懲り性もないもんぢやない
 エジ―ホードーナモンノ……………これは何ですか又はこれは何だ
 エズ―コンバイ……………いといやす意
 エークソバラデシタコト……………非常に悪度胸のすわつたもん
 エシヤクコンボーシコボレテ……………ぢやないの意
 エークイエンジユー……………非常に来ることの遅いぢやない
 テンガナモン……………の意
 テッシラート……………焼腹でしたこと
 ……酔つぱらつた
 ……追従お世辭だら〜の意
 ……右回左折たざりたざりの意
 ……巧妙不可思議なもの
 ……手厚くと云ふ意

テンデンタツテ云フモンデ……………めい〜口々に云ふ者だから
 アラヨ―ソクシヤカ……………あんなんど云ふつらくにくいこと
 ……がの意に近し
 アギャンシユーデシタギー……………あんなにしようとしたらこんな
 コギャンナッタ……………になつた
 アン畜生ワロー……………あの畜生奴
 アイバツテン……………であるけれども…であらうが
 アイナイドン……………右 全
 アヤモコツケモナカ……………味も風味もない
 サシツケナイドン……………突然ながらの意に近し
 サイバノ―ド―ヂャローカ……………さればだネどうだらうか
 キメーモン……………利發な人
 キサンナモンナター……………存外速いもんだな一の意
 キヤーモン……………買物
 ユ―ルシガチャー……………夕方

ユラート……………ゆるりと
 ユーユートヨカ……………心にかゝることもなく悠々とよ
 いの意
 ムッチャークッチャーニナカ……………めつたにはない
 メソイ〜スッ……………めそ〜する
 メメグルシカ……………ウルサイ
 メノメキザンニスラゴトユ……………眼前ありありとうそをいふ
 ミタンナカ……………みつともない
 ミヤーラゲマッシュ……………まわりませう
 ミヤーランカンタ……………(神社寺)まわりませんか
 ミンゴ……………耳あか
 シカンニ……………しつかり嚴重に
 シカッナ人バイ……………乱雑不規律な人ぢやない
 シャービヤ……………さしでぐち

登 録 商 標



壽 延 丹

たんせきぜんろく根治良劑にして
 肺病○百日咳○胃病○貧血病其他衰弱諸病に用ひて滋養
 強壯の偉効あり

三分入 價貳拾錢
 七分入 價四拾錢

元祖本舖 發賣元

肥前國佐賀市
 点合町東角
 佐世保市常盤
 町名切通り

高取積粹藥館
 高取積粹藥館分店

東京高等師範學校長
京都大學教授 (英文武士道著者)

嘉納先生題字
新渡戸博士序文
中村郁一氏編

故人 山本常朝先生談話
田代陳基先生記述

肥前論語

葉隱

生粹之武士道

菊版・和裝・大和綴・特別体裁・貳百餘頁…定價金六拾錢

本書は
武士道の真髓
葉隱の武士道
生粹の武士道
精神教育の唯一の寶
二十世紀の今日吾人を起し
靈的界の霸王
荷も日本人たるものは
本書の真髓を玩味
して起たれよ

東京市本郷區本郷
佐賀市白山町河内汲古堂
片田江西村温故堂
北堀端中島德全堂

- シミヤードチミヤードラゲタケン……………(食事)濟して直く参りましたか
- モイオカノンサンナ……………らもうおかまひくださいますな
- シギ……………しびれ
- ヒットダス……………ひつとは語を強むること「アノ
- ヒタルカ……………人ハ妻ヲヒット出シタ」
- ビッチーシタ……………ひもじい
- ヒョークラカス……………びつくりした
- モ……………冷罵ヒヤカスノ意に近し
- ゼンモン……………乞食
- ゼンナク……………是非とも
- センカンター……………なさいませんか
- セカラシカヤツモンナター……………うるさい人ですな
- ストンビン……………オドケモノ
- スツテノグッテノイフタ……………すつたもんだ云ふた

對話 一一一

客「カスメチックのありますか

番頭「ナイゴザンスツパンター

(ハイありますよ)

宿の女中に戯れると

あらよ、にゃーどとしんさつかい、こなたのほんに、そく
しゃやーか、ひんのひなきやーぞーたんして、ふーふーしよー
ぎゃーすかんばんたー、ほんにーうらめしかおきやくさんのー
譯何事なさいますか、此方様のほんに憎らしい、晝の日に戯
談なすって、しみく〜と好きませんよ、ほんにーうるさいお客
さんだことよ

書生言

アサンナー代數シタコー

君は代數を調べたかね

アサンソギャンコトノアルモンコー

君そんなことのあるものかね

女子(學生)

遊びギャーキンサイ

お遊びにお出でなさいませ

小供

〇〇さん遊スボー

〇〇さん遊びませう

妻君

あなたんところの、だんなさんな、えすーお歸りの
ござんせんたー

あなたの旦那様は、ほんとにまあ(意)お歸りがございま
せんことネ、、、

○佐賀の工場

(著名なるもの)

●佐賀精煉合資會社 藩主鍋島閑叟公、精煉方を置かれしに始まる
農具漆器團扇理化學工藝品其他日常の必需品、一として製出せざ
るものなかりき。就中、硝子製造の如き、全國嚆矢とす。爾來、
變遷を重ねて今日に至り、合資會社となり、硝子の製造を以て主

業とし、今日の隆盛を見るに至れり。

●佐賀セメント株式會社。は明治卅年七月の設立にして、本社を佐賀市與賀町に置き、工場は筑後川の沿岸諸富港の北部に設けたり。筑後若津港と相對し、船舶の出入最も多く、運搬極めて便利の地なり。其工場を一覽するに、原動力には、有名なる英國ロベイ會社專賣に係る、新式三聯成凝縮汽機三百馬力壹臺を用ひ粉末器には米國製スミウズチューブミル貳臺並フレット拾臺を有し、其他之に準して諸機械完備せり。職工使雇の員數は男女を合して常に貳百五十餘人、其一ヶ年の製造高拾万樽を越え、品質最良にして全國一二を爭ふ業務の一般は大阪市に代理店を置き、東京、京都、吳、博多、長崎、佐世保、鹿兒島、台灣、其他各地に販賣店を設けたり。清韓地方に有りては、營口、漢口、旅順、大連、京城、仁川、釜山

等に取り引店を開き其業日々盛大に越きつゝあり。

●谷口鉄工場。市内長瀬町にあり、谷口清八氏の主宰する處にして息源一郎氏工場を監す。單獨の工場として全國に稀有也、參百有餘年前藩主鍋島公の御用鑄金家たりし谷口清左工門尉長光氏より、爾來代を重ねる十有一、現主清八氏に至るまで、嘗て其業を斷たざりしと云ふ維新と共に諸種の工業勃興し、一つに機關の活動を仰き、殊に筑豊其他九州一圓の採炭事業大に進み悉く機械に據て探掘せらるゝに至るや、全工場も亦時世と共に變遷し、此に機械製作の事業を起し、大に各工業家の歡迎する處となり、工場愈々狹隘を告げ、幾度か此れが増築と、機械の設備を増し、爾來益繁榮を來し以て今日の盛運に達したり。

現下製作するものは鑛山、鐵道、製紙、紡績、精米、及び水道諸

機械、鑄鉄管類等にして、就中鑛山用諸機械大部を占む。

彼の筑前博多東公園に一偉彩みさいを放はなてる元冠紀念 龜山上皇御銅像（身丈け壹丈六尺）及び日蓮上人銅像（身丈け參丈五尺）の如き、大に技術の妙みよを博はくせり。又下關市水道に要せる送水線路用鑄鉄管（水源地より貯水工場迄幹線約參里の間に布設したるもの総重量貳千五百餘噸）の如きは一つの不合格品を出さざるのみならず、全水道工事長工學士瀧川劔二氏は、其成績の佳良なるを賞して証明書を付與せられたり。日露交戦中は、大阪砲兵工廠の命を受け、拾五珊米臼砲破甲榴彈彈体の製作に従事し、其成績に付ては、檢査官陸軍大尉野口徳太郎氏より、檢査の結果総て良好にして多數の砲彈中、一發の不合格品を見ずとの通報ありしと又以て其の事業の隆盛と技術の巧妙なる一般を窺ふに足る。

工場建物整頓し、諸機械亦た完備す。職工參百人を越え、工場多忙、年間夜業を絶たず。場内發電器を設置し夜間は電燈を以て其用を辨べんず。又別邸及び事務所の間は近距離電話きんきょりを架かす。

而して場主清八氏は居宅を前方に建築し、益々工場の擴張を企畫しつゝあり。

●眞崎鉄工場 市を離はなれて東に入丁ばかり、佐賀郡巨勢村高尾こせむらたかにあり。場主眞崎照郷氏苦心くしん慘愴さんぜん十餘年の後、改善補修かいぜんほしゆを加へて、完成かんしたる有効無比の製麵機械せいめんきかいを作れり。職工を督とくして盛に製作しつゝあり。麵類機械めんるいの外に、種々の鉄機械を製作しつゝ業務盛大なり。

●鶴澤麵類機械製造所 佐賀市點合町の自宅に工場を設け、盛に製作に従事じゆいじしつゝあり、原料は眞崎製まざきとは稍異やまに、木材及鉄を以て

し、機械亦精巧にして、真崎製と両々相對して、製麵業界に貢獻しつゝあり。

●佐賀機械製造所 佐賀市松原町馬賣馬場にあり所主野口健藏氏天賦の技能を有し、明治十一年醫術機械の製作を創めしより、益々精巧を究め、舶來品を凌がんとするの勢あり、近時我邦にて未だ製作普からざる、エツキス光線器械、自動ヘレオスタツト器、無線電信機械等の如き、精妙巧緻を極むるを以て、京都大學を始め各地の學校よりの注文あり、あらゆる機械の殆んど巧妙の製作をなすを以て、業務隆盛の域に進みつゝあり宜なる哉文部大臣より學界に功勞ありとの表頌状を得たり

●嘉瀬町鑄物 市を離れ西に凡十丁、佐賀郡嘉瀬町にあり、舊藩時代より鋤先、鍋、釜の鑄物盛にして、嘉瀬町鑄物の名知られ今は佐

賀鑄物株式會社の組織を見るに至れり

○名物案内

●丸房露 今より凡三百年前、肥前藩の御用菓子屋たりし横尾市郎右工門と云ふもの、和蘭人より其製法の傳授を受けたと云ふことなり、形狀は菅笠に似、色澤茶褐色にして、甚不嗜好を極むれども、風味甚佳良にして、原料亦雞卵、澱粉、砂糖等を以てせる故、衛生上有効なる製菓にして、世人の賞味して措かざる所なり。

(價壹斤金二十八錢)

●嘉壽貞良 丸房露と略同質にして、只其の形狀食パンに似たりこれ亦高尚優美にして、風味佳良なり上等の茶菓たり。(價一封四百目金九拾錢)

●羊羹 古來其の名を全國に知られたる山城伏見の産と、始と類し、風味佳良なる色澤の艶麗なるとは、人をして垂涎せしむ、味は却つて伏見産の右に出てんか、佐賀地方の名物なり、小城羊羹の名世に著れたるは、昔時伏見の人小城町に來りて、製法を傳授せしに因ると、佐賀の産敢て小城羊羹に遜色なし。(價壹斤金十六錢)

●釣柿 本縣特有の産にして全國に比類稀なり、殊に倉谷柿の名噴々たり、柿を小繩に結び、日光に干して、百個を一下けとなし、市場に出す、頗る糖分に富み、其の味の絶佳なること、砂糖製菓の遠く及ぶ處にあらず、殊に茶席の用としては、此の右に出つるものなし市にては多く唐人町の問屋に集る價

熟煉 一把(百個) 金凡一回より四十錢位
 稻左 一把(百個) 金凡七十錢より二十七八錢位

マイ干 市場に集る量少し

●お堀蓮根 舊佐賀城の城池にある紅蓮白蓮の地下莖なり、味淡白にして、多少の澁味と甘味とを有す、他方の産にまさり味雅なり

●佐賀ネル 厚生舎の製品にして、染色の確實にして、地合の堅牢なるを以て名あり、實用的織物なり。

●扇町毛氈 舊藩の頃佐賀扇町に於て、製造せられたるものなるを以て、此の名あり、原料は木綿糸を以てし、高尚優美なること、保存の久しきに耐へ歲月を経るに従つて、益々其聲價を貴からしむるとは本品の特色なり、今は監獄署にて織出す。緞通と異なることろなし、普通疊一枚敷のもの八圓位より十圓位までなり

●奈良漬 近郷に瓜の産出多きと、市に酒造業多き爲、其の産出多し、味雅美にして風味よろし、(代金一空七錢位)

●倉谷葛 佐賀の市場に著はれ、葛とし云へば倉谷葛の名を以て呼ばれ、品質特によろしく、片栗粉と共に名物の一たり、(代價一袋三百目三十二錢位)

●泥猴魚 有明海の泥土中に棲息する魚類にして、三四寸より七八寸に至る、肥満して潑々元氣よくして、色泥色にして少しく藍色を帯ひ、形圓形にして長し、此の魚の珍らしき点は、瞬するにあり、脂肪多く然も味甚だ佳なり、宜なり 皇太子殿下御立寄の際は、畏きことなから御饌に上れる魚にして、長崎に於ても今一つの泥猴魚をこの御下命ありしやに漏れ承りぬ(價一尾金凡五六厘) 佐賀市に多く集まる、生魚のまま長時間蓄ふことを得、冬季は市場に表れず、

●名尾紙 佐賀市場に集まる商品の一にして、佐賀郡松梅村名尾山に産出す。實に本縣製紙の起原をなし、元祿年間に始まり。筑後國溝口村僧日源より、漉造の法を傳へられたるに起れり。原料楮皮を使用す。名尾山附近に於ける一ヶ年の産額は、約三万餘緡にして、其價額、亦約七万圓に上る、其の製品の重なるは、美濃紙、半紙、傘紙等にして、其の他に外國輸出向としては、「天狗紙」

「コッヒー紙」「ナプキン用紙」等も製出す、其の販路は長崎、福岡、京都、大坂、東京地方、及び佐賀縣一圓にして、外國向は神戸に向つて積荷す、

●鯉 佐賀の市場に出づる産物の一にして、有明海の沿岸、遠淺の泥瀉に産す。近年其の養殖、漸次隆盛に赴き、盛に海外(主に支

●倉谷葛。佐賀の市場に著はれ、葛とし云へば倉谷葛の名を以て呼はれ、品質特によろしく、片栗粉と共に名物の一たり、(代價一袋三百目三十二錢位)

●泥猴魚。有明海の泥土中に棲息する魚類にして、三四寸より七八寸に至る、肥満して潑々元氣よくして、色泥色にして少しく藍色を帯ひ、形圓形にして長し、此の魚の珍らしき点は、瞬するにあり、脂肪多く然も味甚だ佳なり、宜なり 皇太子殿下御立寄の際は、畏きことながら御饌に上れる魚にして、長崎に於ても今一つ泥猴魚をこの御下命ありしやに漏れ承りぬ(價一尾金凡五六厘) 佐賀市に多く集まる、生魚のまゝ長時間蓄ふことを得、冬季は市場に表れず、

●蠣牡(方言)有明海産の一にして、其の形体他方の産に比すれば非

常に大に、味亦従つて他に超えて宜し(一升價金二十錢位)

●名尾紙。佐賀市場に集まる商品の一にして、佐賀郡松梅村名尾山に産出す。實に本縣製紙の起原をなし、元祿年間に始まり。筑後國溝口村僧日源より、漉造の法を傳へられたるに起れり。原料楮皮を使用す。名尾山附近に於ける一ヶ年の産額は、約三万餘疋にして、其價額、亦約七万圓に上る、其の製品の重なるは、美濃紙、半紙、傘紙等にして、其の他に外國輸出向としては、「天狗紙」「コッヒー紙」「ナプキン用紙」等も製出す、其の販路は長崎、福岡、京都、大坂、東京地方、及び佐賀縣一圓にして、外國向は神戸に向つて積荷す、

●煙。佐賀の市場に出づる産物の一にして、有明海の沿岸、遠淺の泥瀉に産す。近年其の養殖、漸次隆盛に赴き、盛に海外(主に支

那朝鮮に輸出し、將來大に望を繋ぐに至る。今茲に其の生長の度を示す。

一年生	長三寸	巾九分	一升の容數凡三十五個
二年生	長三寸五分	巾一寸二分	一升の容數凡二十七個
三年生	長三寸八分	巾一寸三分	一升の容數凡二十個

* * * * *

○佐賀の商業

●佐賀の繁昌は東部に集まれり、従つて商店旅館等の如きも、亦東部に集まれり、

●佐賀商人は他方の商人の如く、巧辯、弄舌ならず、悪しく云へば無口なるを以て、無愛嬌なり、善く言へば扑訥にして淡白なり

巧辯、弄舌せざる丈、安んじて信を置いて物を購ふべく、無愛嬌なる丈、深く愛すべき美德あるを認めずや、

●佐賀の旅館 比較的現金主義にあらず、他方の如く米搗虫の様に頭をビョク下げ、チャホヤおせじを言はず、又花の如く待遇せず然れども誠實誠意以て、衷心より客として款待し、他方の如く黄金少ければ輕薄にする如き、黄金を款待すにあらず、客其の人を待遇するなり、従て懇切周到の注意と、慇懃丁寧、以て眞の待遇をなすものたるを諒し給へ、

●佐賀人 一体に尙武の風盛なるは、明治維新までは、鍋島武士葉隠武士として武道を鍊りし故か、元來佐賀の地には、二百年一派

の武風あり、これを葉隠武風と云ふ。葉隠武風とは葉隠集によりて、精神を鍊り、武士道を研ぎ、これによりて以て人材輩出し、佐賀の武名を持せりき。其の餘波今日に及び、一般に尙武士的の氣風存し、從て實業的方面の思想比較的に乏し、されどこの思想も、日を追ふて脱化するに至らん。前述の如きを以て、風俗の如きも概ね質素にして、殊に學生の如きに至つては素朴の美風あるは、他方人士の目新たなるところならん。

佐賀案内 終り

明治三十九年三月十日印刷

明治卅九年三月十五日發行



佐賀縣佐賀市柳町四十五番地

著作兼發行者 **木下鹿一郎**

全縣全市全町全番地

印刷所 **晴雲堂**

九鉄佐賀驛汽車發着時間表

長崎發 門司發 佐賀發 八代發 八代發 門司發 長崎發 八代發 長崎發 博多發 長崎發 佐賀發

壹貳貳 壹陸九 壹壹壹 貳肆四 肆參參 陸壹壹 八參五 壹壹八

新橋行直通 八代行接續鳥栖乘替 門司行接續鳥栖乘替 大隈若松行接續折尾乘替 宇佐行接續小倉乘替 戶畑線接續折尾乘替 新橋行直通 八代行接續鳥栖乘替 門司行接續鳥栖乘替 大隈若松行接續折尾乘替 宇佐行接續小倉乘替 戶畑線接續折尾乘替 新橋行直通 八代行接續鳥栖乘替 門司行接續鳥栖乘替 大隈若松行接續折尾乘替 宇佐行接續小倉乘替 戶畑線接續折尾乘替 新橋行直通 八代行接續鳥栖乘替 門司行接續鳥栖乘替 大隈若松行接續折尾乘替 宇佐行接續小倉乘替 戶畑線接續折尾乘替

本線上り列車

接續終端驛

全 右

新品	橫古	平古	名古	草津	馬場	京都	大阪	三宮	吳宮	神戶	兵衛	須磨	舞子	明子	加古	曾根	姬路	長岡
八	八	八	八	六	五	五	五	四	四	三	線	四	四	四	四	四	四	四
三	三	二	二	二	一	〇	五	二	〇									〇
六	四	二	二	二	五	六	一	四	六	〇								〇
唐	小	佐	長	大	武	北	山	牛	久	神	熊	久	二	博	小	門		
津	城	保	崎	村	雄	方	口	津	田	崎	本	米	市	多	倉	司		
一			四	一									三					
九			五	三									五					
			二	三									一					
			〇	六									一					
			九	五									三					
			〇	九									三					
			五	九									三					
			〇	九									三					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					
			八	三									一					
			〇	三									一					
			五	三									一					
			〇	三									一					

● 通行 稅

二百哩又 八二百海 里以上	二百哩又 八二百海 里未滿	百哩又八 百海 里未	五十哩又 八五十海 里未滿
一 等	一 等	一 等	一 等
五十錢	四十錢	二十錢	二十錢
二 等	二 等	二 等	二 等
廿五錢	二十錢	十 錢	十 錢
三 等	三 等	三 錢	一 錢
四 錢	三 錢	二 錢	一 錢

全 右

● 切符通用期限内隨意下車驛

小倉、大藏、黒崎、折尾、赤間、福岡、香椎、箱崎、吉塚、博多、
 二日市、鳥栖、久留米、羽犬塚、矢部川、高瀬、木葉、大牟田、
 上熊本、熊本、宇土、佐賀、久保田、牛津、武雄、有田、早岐、
 大村、諫早、大草、道ノ尾、城野、行橋、宇ノ島、中津、伊田、
 後藤寺、直方、小竹、飯塚、金田、戸畑、八幡、小城、山本、

◎ 佐賀停車場より市内各町に至る人力車賃錢表

賃 錢	行 先	地 名
八 錢	白山町・中ノ小路四ツ角・唐人町・寺町・米屋町	...
九 錢	中町・元町・東魚町・多布柳町・吳服町・蓮池町・中ノ小路・新馬場・郡役所・縣廳 裁判所・中學校・厚生舎	...
拾 錢	高木町・柳町・馬貴馬場・通小路・岸川町・伊勢屋町伊勢屋本町・點合町・市役所 與賀町・六座町・西田代町・西魚町・西堀端南突當・片田江・牛島町・材木町・細 屋町・水ヶ江町・監獄・共進會場	...
拾 壹 錢	長瀬町・道祖元町・下今宿町・東田代町・工業學校	...
拾 貳 錢	八戸町・本庄町	...
拾 參 錢
拾 四 錢
拾 五 錢
◎ 佐賀市白山町元標より人力車賃錢表		
賃 錢	里 程	行 先 地 名
拾 貳 錢	貳 拾 五 丁	神野村・神野御茶屋
拾 貳 錢	參 拾 丁	本庄村・高傳寺
貳 拾 七 錢	貳 里貳 拾 五 丁	春日村・御菩提所
貳 拾 七 錢	二里貳 拾 六 丁	川上村・實相院

六十五錢 貳里拾六丁 諸富
 二十二錢 六里五丁 古湯
 ◎人力車賃錢定額
 一市街五丁未滿金五錢以內十丁未滿金八錢以內以上五丁ヲ増ス每二
 金壹錢ヲ加フ
 二平道壹里ニ付金十錢以內二人挽ハ本項賃錢ノ二倍以內トス
 三夜間雨雪難路ノ増額ハ各貳割以內トス
 四客待ハ一時間毎ニ金四錢以內トス
 五一日雇切金七十錢以內半日雇切金四十錢以內

電話所		對話地名	電話料
長崎	福岡	大車田	貳拾五錢
若松	小倉	熊尻	參拾五錢
門司	下關	大村	參拾五錢
佐賀	久留米	佐保	貳拾五錢
郵便局	留米	武世雄	壹拾五錢

對話地名 電話料

對話地名 電話料

電話長距離に加へなき先は電話料の外に呼出料を納むべし

郵便電信料金一覽表

通郵便料		第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	小包
書狀	葉書 通常葉書 往復葉書 封緘葉書	三錢	一錢五厘 三錢 三錢	每月一回以上の新 聞雜誌等 (一)一號一個廿文毎に (二)二號又は三個以上束同一 五錢厘	書籍、印刷物、業務用 書類、寫真、書畫、商 品見本及雛形、標本 三十文毎に 二錢	農産物種子 二十文毎に 一錢	同一郵便區内 金五錢
二百文迄	四百文迄	六百文迄	九百文迄	一貫二 百文迄	一貫五 百文迄		

郵便料

同一郵便區外	一〇	一五	二〇	三〇	四〇	五〇
内地臺灣間	三〇	三五	四〇	五〇	六〇	七〇
日清韓相互間						

●通常郵便物の容積は長一尺三寸幅八寸五分厚五寸限
 ●第三種郵便物の容積は長一尺三寸幅八寸五分厚五寸限
 ●第四種郵便物の容積は長一尺三寸幅八寸五分厚五寸限
 ●第五種郵便物の容積は長一尺三寸幅八寸五分厚五寸限
 ●小包郵便物の容積は長幅厚各二尺限とし幅及厚各五寸以上のものは長三尺限重量は一貫五百匁限

特殊取扱

●別配達料 市内十錢 市外三十錢
 ●他の郵便區内へは別に一里毎に十五錢
 ●船料は實費額
 ●留置通知料 三錢
 ●書留料 七錢
 ●留置料 七錢
 ●價格表記料 十圓迄は七錢、十圓以上百圓迄は十圓を加へる毎に五錢を増し、百圓以上は十圓を加へる毎に三錢を増す
 ●代金引換料 五錢
 ●外に取立金送達料十圓迄五錢、十圓以上百圓迄は十圓を加へる毎に四錢を増し百圓以上は同三錢を増す

料

●現金取立料 五錢
 ●外に取立金送達料代金引換に同じ

●名宛變更及び取戻料

差立前……………五錢
 郵便に依るもの……………八錢
 差立後……………四十錢
 電信に依るもの……………七十錢
 名宛變更……………七十錢
 代金引換及び現金の取消料……………七十錢
 差立前……………五十錢
 郵便に依るもの……………八十錢
 差立後……………四十錢
 電信に依るもの……………四十錢

●價格表記金高 千圓限
 ●代金引換金高 三百圓限
 ●現金取立金高 一口に付三百圓限
 ●留置郵便物の留置期間 三十日
 ●通常郵便物を無料で付箋轉送し得る期間 十日

郵便爲替一覽

*一四

制金	料替爲		
	電信爲替	通常爲替	以十圓
額	三十錢	六錢	以十圓
小爲替	卅五錢	十錢	以二十圓
五圓迄	四十錢	十五錢	以三十圓
五圓迄	四十五錢	十八錢	以四十圓
六十日	五十錢	廿二錢	以五十圓

一枚に付 三錢

期有効 通常爲替 電信爲替 小爲替

五錢 郵便に依るもの三錢

電信に依るもの相當電報料

通常、電信爲替 三錢

爲替料の外に四十錢

- 證書送達料
- 拂渡通知料
- 誤記訂正料
- 通知を要する拂渡停止料
- 拂渡料(有料の場合)
- 拂渡、拂戻局所變更料
- 再度證書料
- 至急電信爲替料

○電信爲替別配達料 郵便別配達料に同じ

○住宅拂料 通常電信爲替 四錢 小爲替 二錢

電報一覽

料報電常通	料報電別特
市區町村内 十五字以内 十錢	至急電報料(官報) 通常電報料の二倍
前項以外 十五字以内 二十錢	照校受信報知料 通常電報料の四分の一
内地臺灣間 十五字以内 四十錢	電報受信報知料 三十錢
五字を加ふる毎に金十錢を増す	郵便受信報知料 三十錢
五字を加ふる毎に金五錢を増す	追便電報料 三十錢
五字を加ふる毎に金三錢を増す	再送電報料 三十錢
五字を加ふる毎に金一錢を増す	同文電報料 三十錢
五字を加ふる毎に金五錢を増す	外國郵送料 二十錢

*一五

別使配達料

三里以内二十錢、三里以外は二里以内毎に二十五錢を増し島嶼に宛てたるものは里程に拘はらず二十錢とし實費之に超ゆる時は實費額

- ◎別使料電報報知料……………二十錢
- ◎別使料郵便報知料……………二十錢
- ◎解船配達料……………二十錢
- ◎留郵便配達料……………七錢

- ◎電報受取証料……………三錢
- ◎電報返還料……………五錢
- ◎閱覽料……………三錢
- ◎正寫料二百字迄毎に……………五錢
- ◎尋問、改正、停止料……………必要電報料

- ◎電線託送料一通毎に……………三錢
- ◎略號又は配達先登記料……………一ケ年十二圓
- ◎局渡料……………一ケ年六圓
- ◎返信料前納證書の有効期間……………三十日
- ◎尋問、改正、停止をなし得る時間……………七十二時間以内

94
413

